

やっぱ、北海道っしょ！



旅する北海道民が支える 北海道観光

加藤 由紀子

北海商科大学公開講座
2023. 11. 11

北海道観光の動き

- 2017年(平成29)・・・北海道観光入込客実数が
- 過去最高の5,610万人に
- 2020年(令和2)・・・北海道観光入込客実数が
- 過去最低ので3,338万人に
- 2023年(令和5)・・・4月29日以降、水際措置を緩和
- 全ての入国者に対して、検査の
- 陰性証明書・ワクチンの接種証明書
- のいずれも提出不要
- 2023年(令和5)・・・5月8日以降、新型コロナウイルス
- 感染症の位置づけが「5類感染症」
- に

YOSAKOIソーラン祭り

238チーム24000人 観客数206万人



提供：YOSAKOIソーラン祭り組織委員会

2023さっぽろオータムフェスト 9月8日(金)～9月30日(土)238万人



新千歳空港 国際線

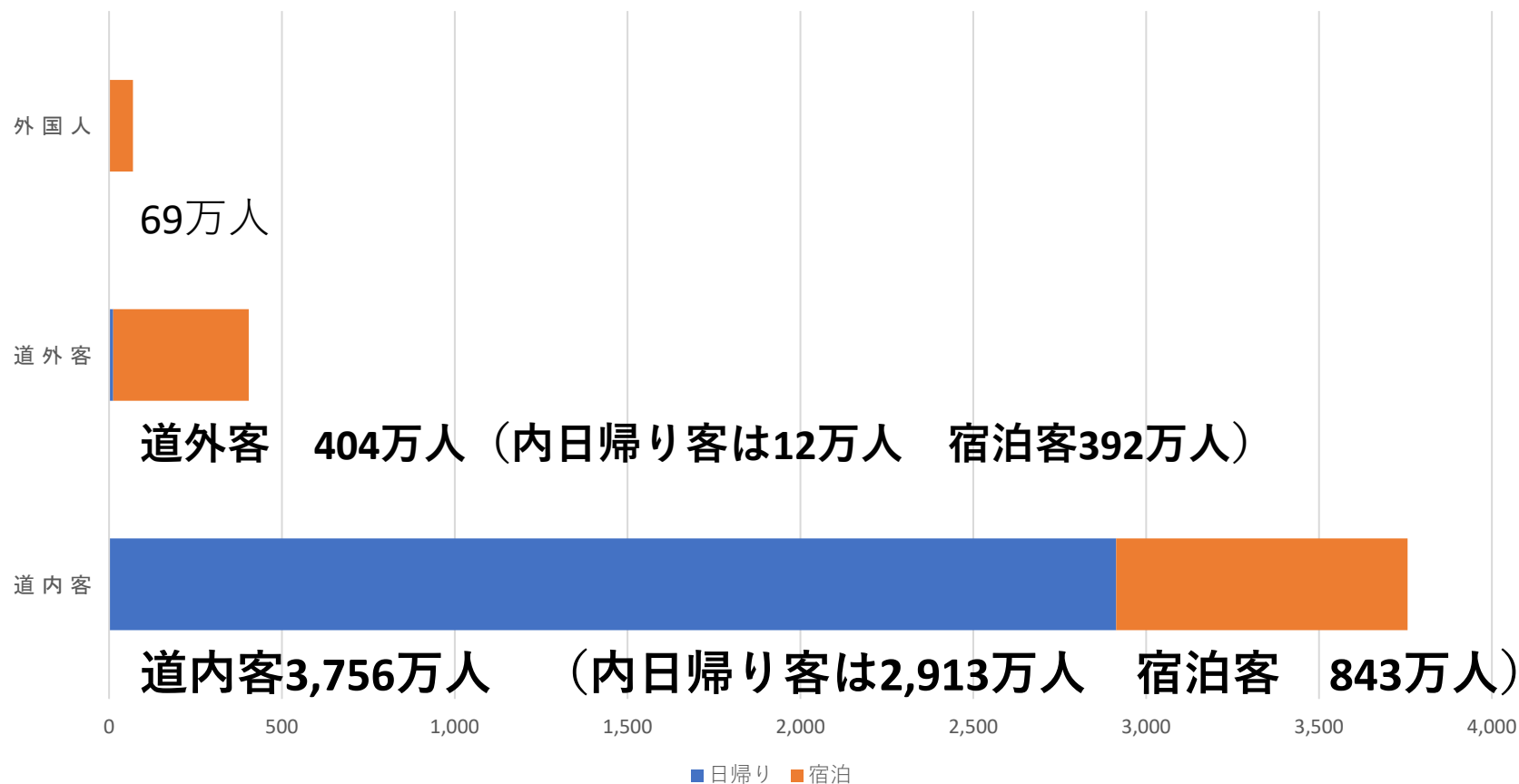
- ソウル:
- 済州航空 ジンエアー アシアナ航空
大韓航空 ティーウェイ航空 大韓航空 エアプサン
- 釜山:
- エアプサン アシアナ航空
ジンエアー
- 北京:中国国際航空
- 上海;中国東方航空
- 春秋航空
- 台北:
- タイガーエア台湾 チャイナ
エアライン エバー航空
- スターラックス航空
- 香港:
- 香港航空 キャセイパシフィック
航空
- バンコク:タイ国際航空
- タイエアアジアX
- シンガポール:スクート



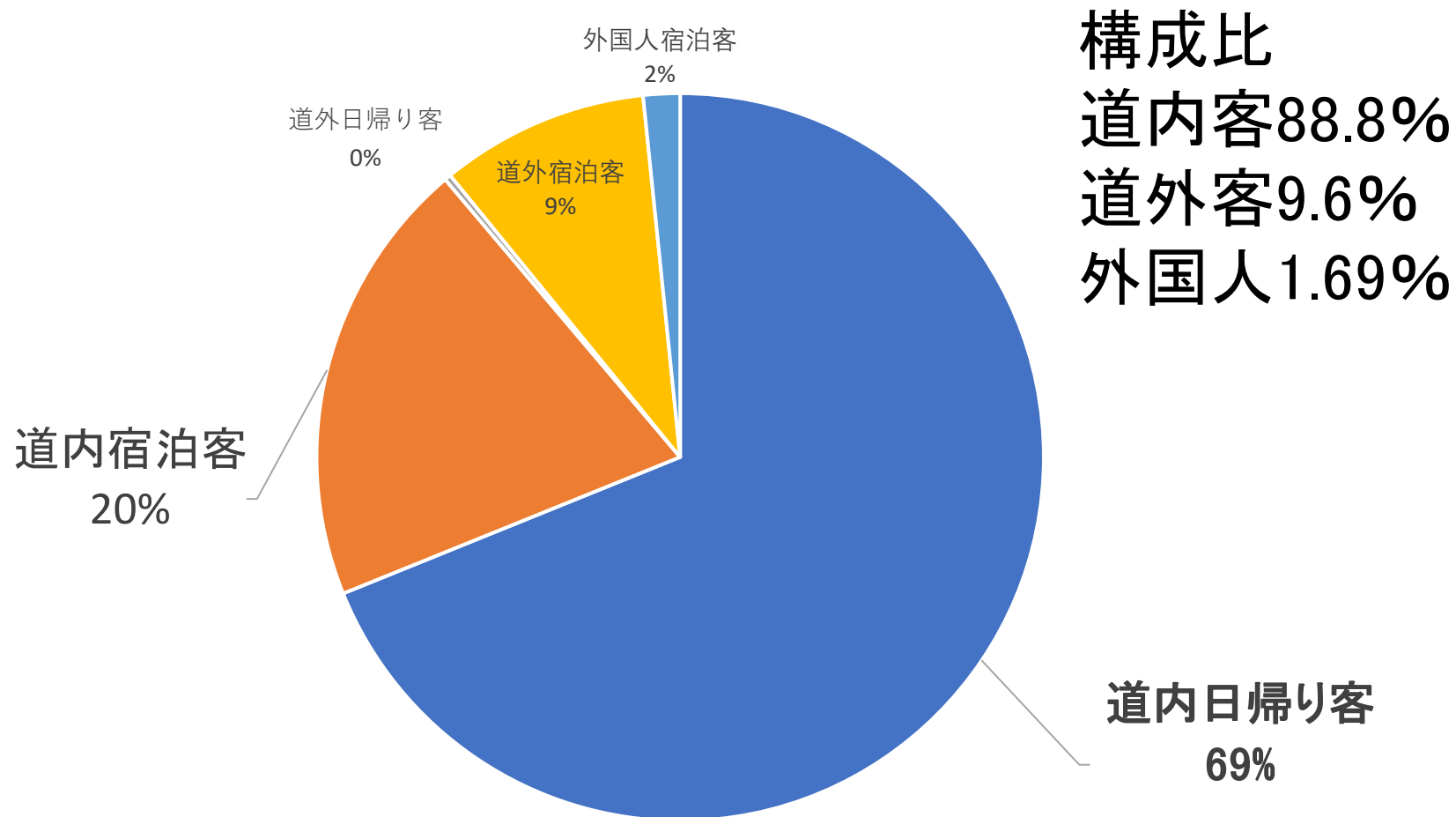
北海道民の域内観光に 大きく支えられている北海道観光



2022年度 北海道観光入込客数 (実数)4,229万人

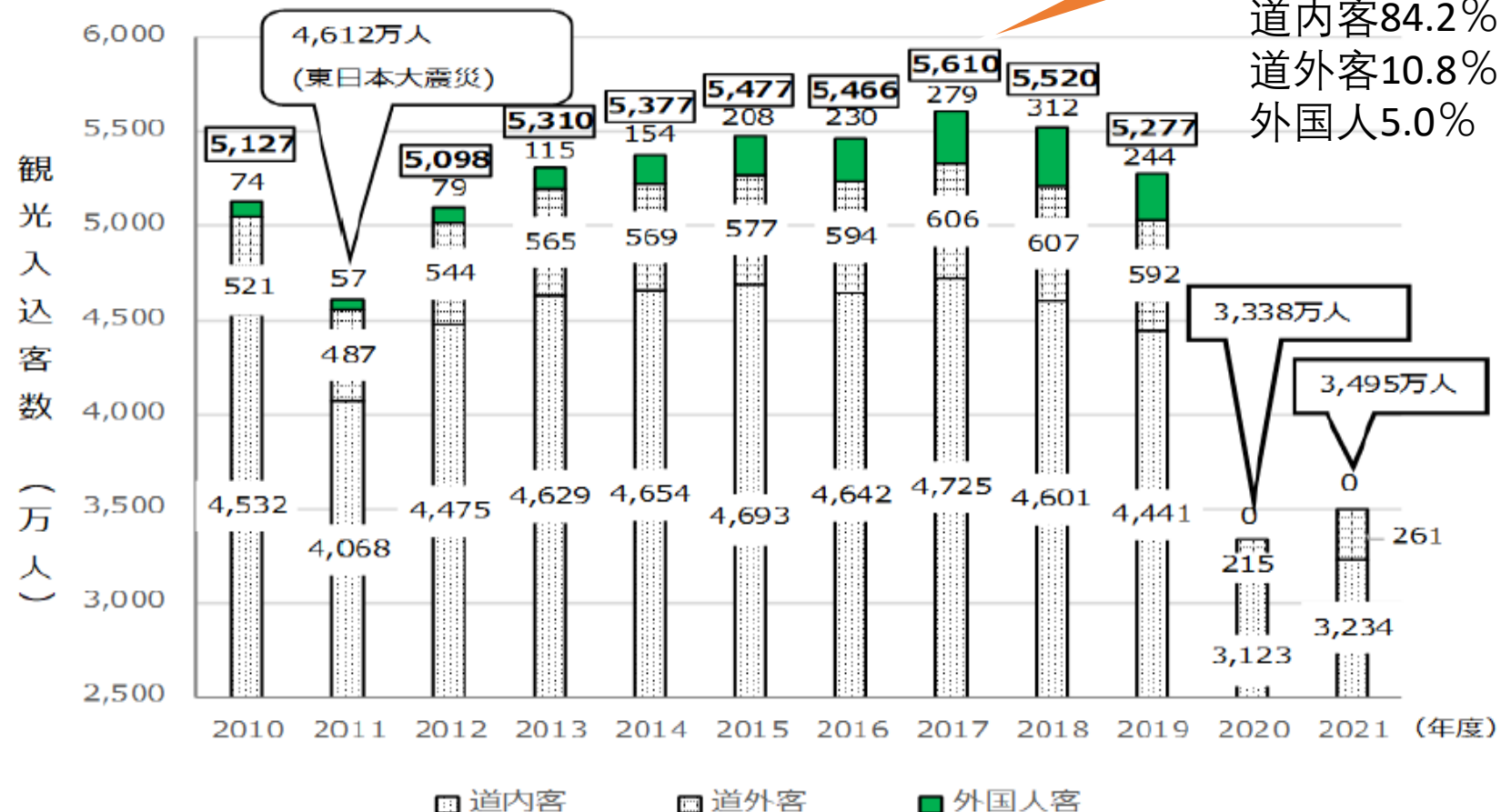


2022年度 北海道観光入込客数 (実数) 4,229万人



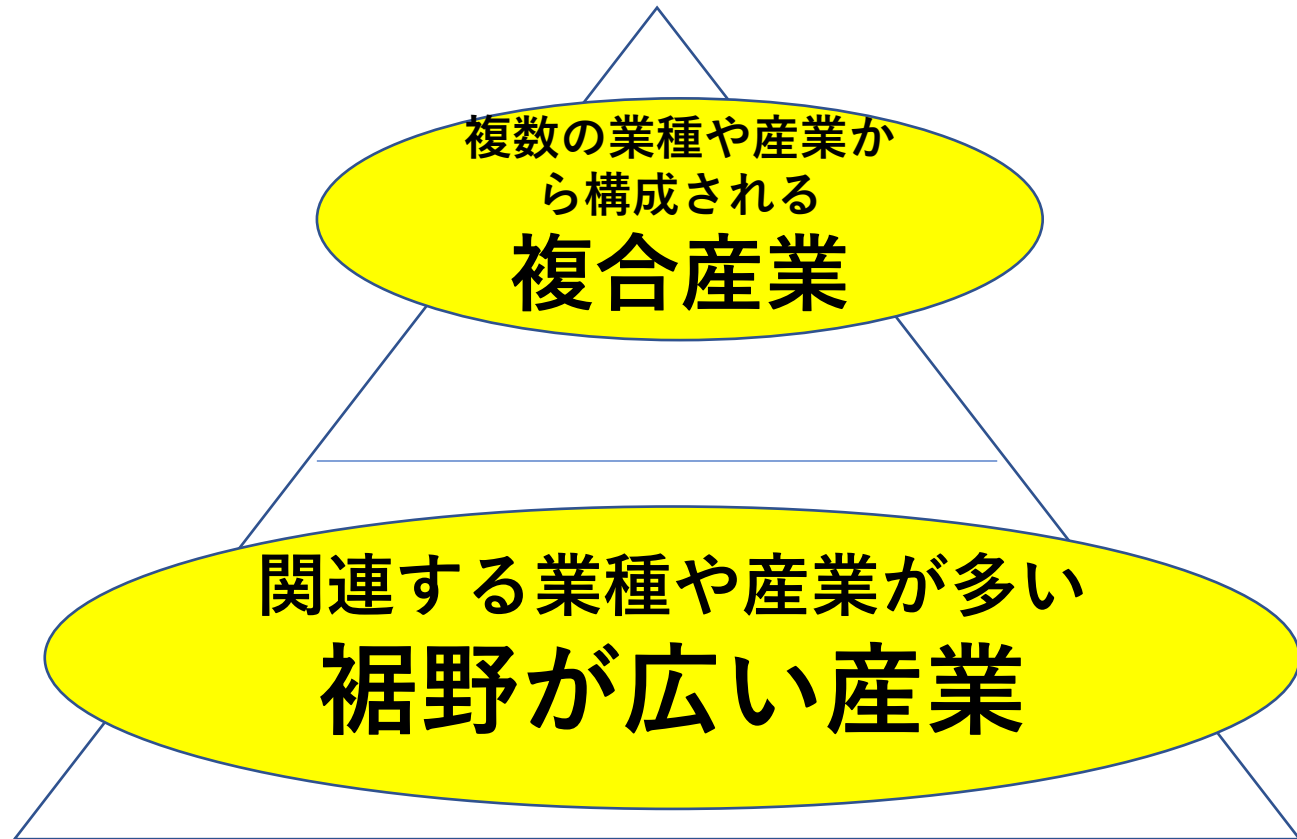
過去最高値

図表 1-1 観光入込客数（実人数）の推移



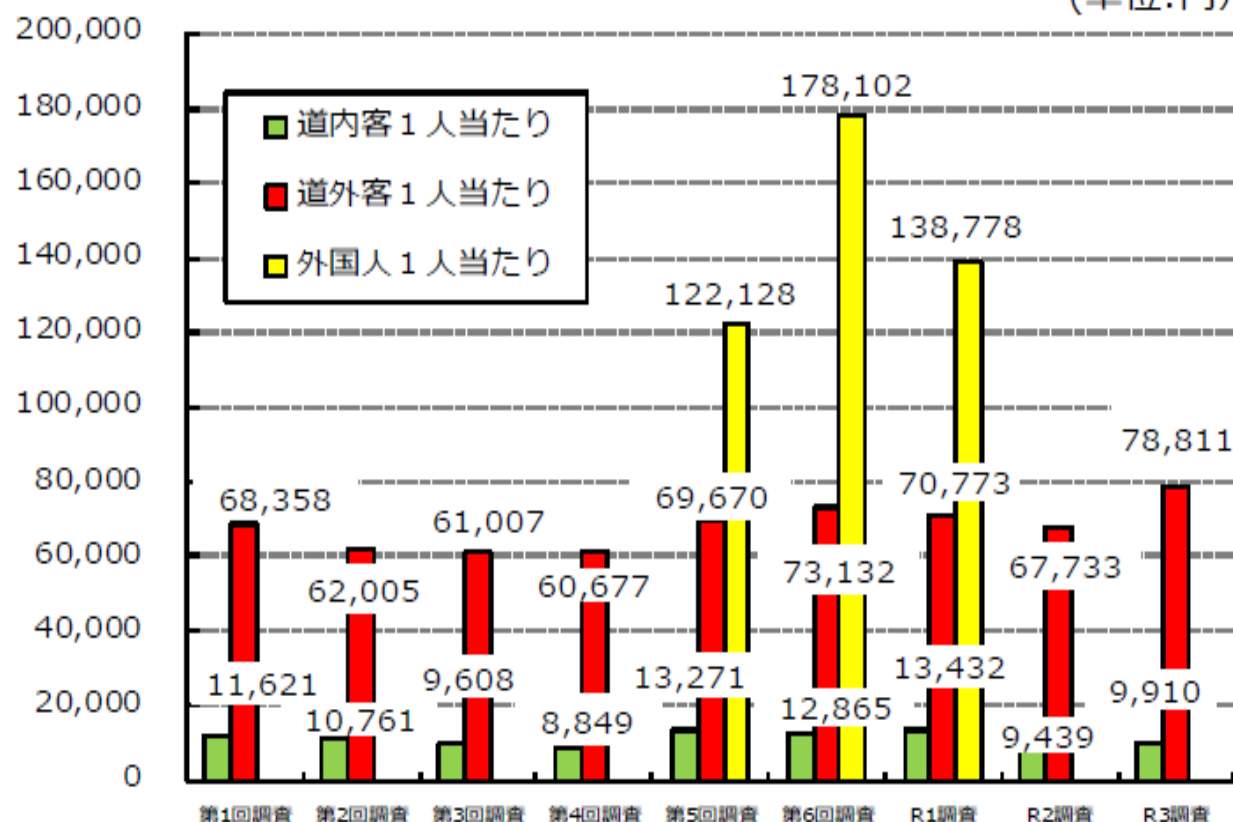
資料：北海道経済部観光局「観光入込客数調査」をもとに作成

観光産業の特徴



図表 4-1 観光消費額単価

(単位:円)



調査期間

第1回調査:

1988.10~1989.9

第2回調査:

1993.10~1994.9

第3回調査:

1999.1~1999.12

第4回調査:

2004.7~2005.6

第5回調査:

2009.7~2010.6

第6回調査:

2014.10~2015.9

R1調査:

2019.9~2020.2

R2調査:

2020.10~2021.2

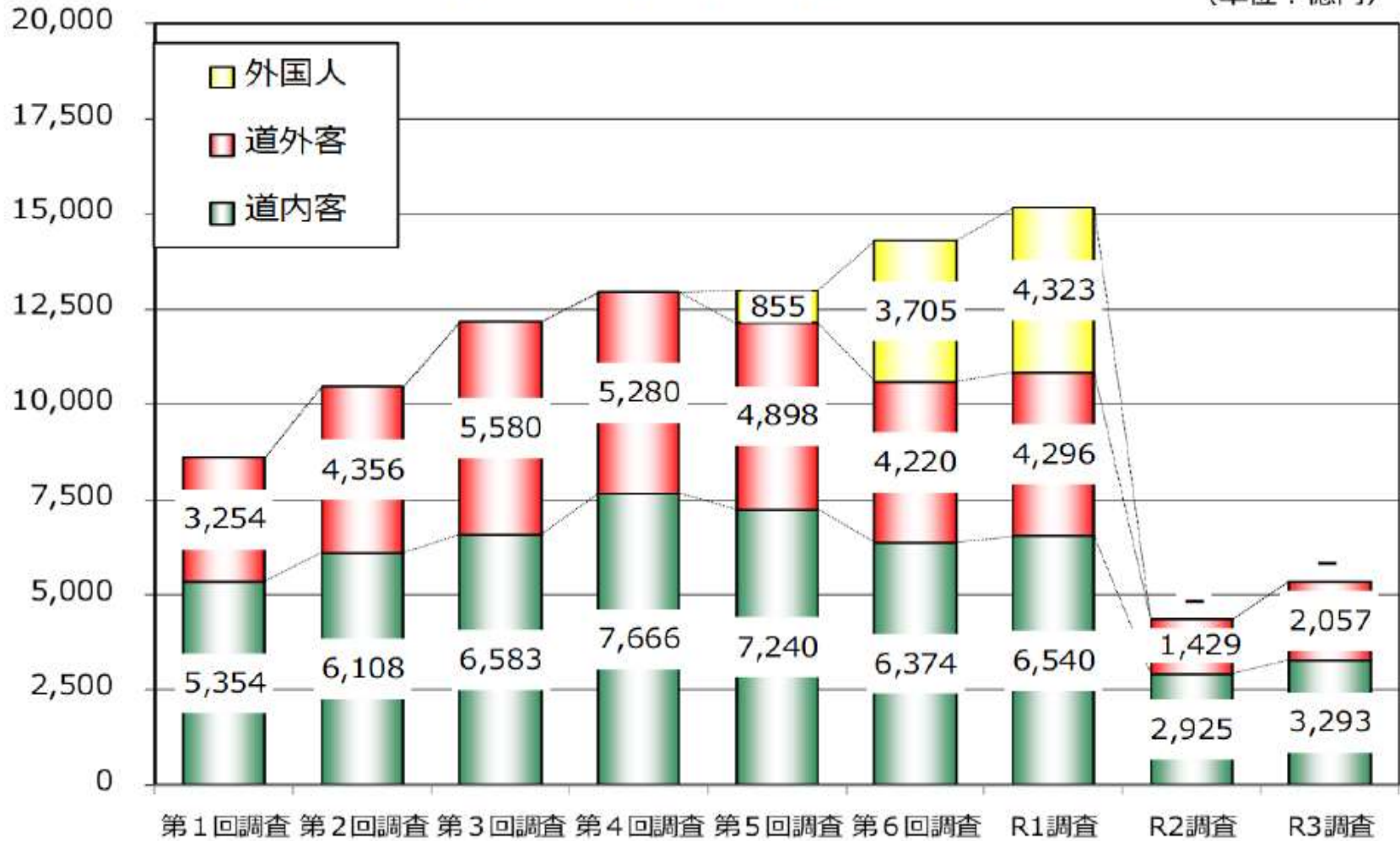
R3調査:

2021.6~2022.2

資料:北海道経済部観光局「観光産業経済効果調査(第1~6回調査)」・(公社)北海道観光振興機構「北海道来訪者満足度調査」をもとに作成

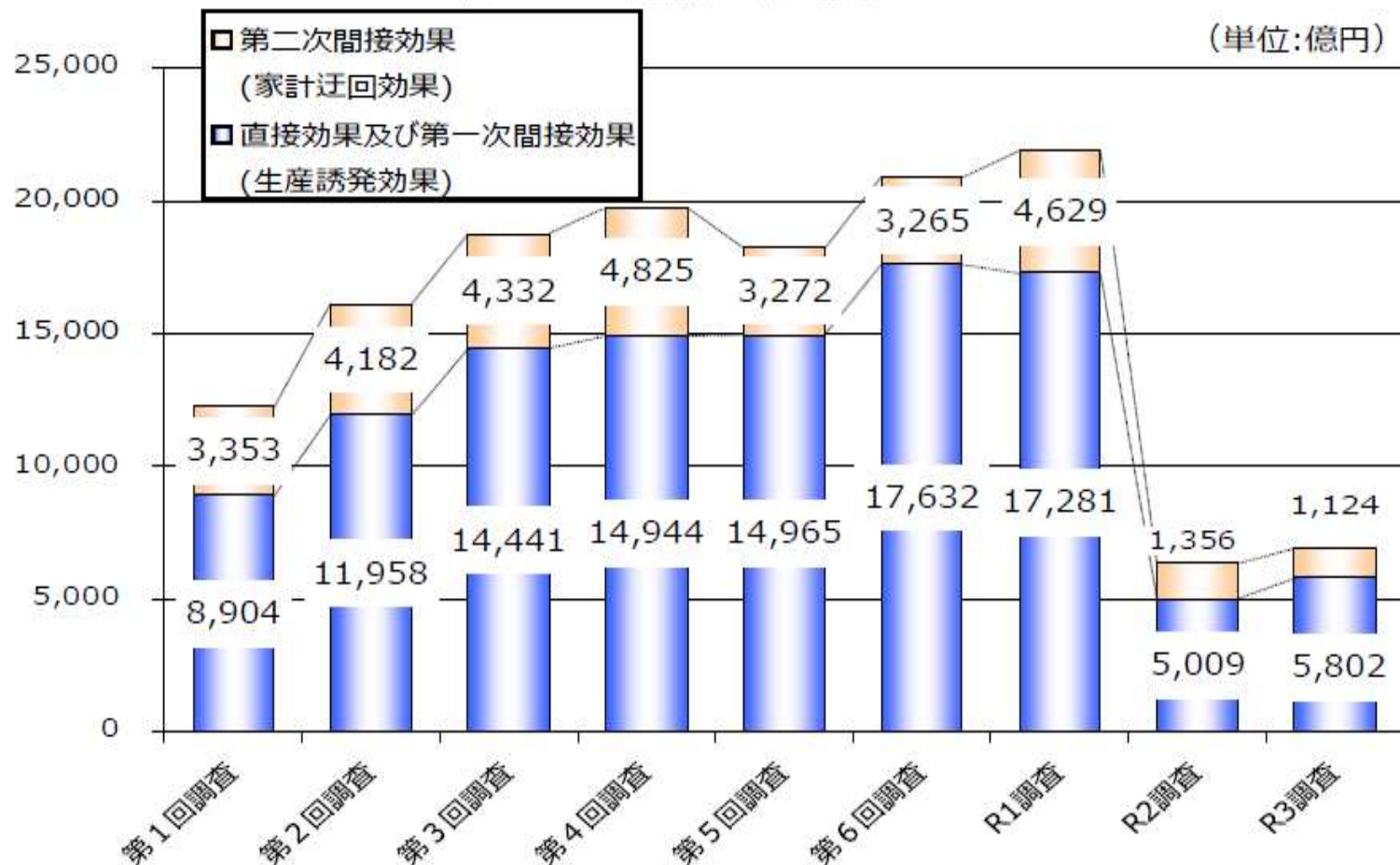
図表 5-1 観光消費額の推移

(単位：億円)



資料：北海道経済部観光局「観光産業経済効果調査(第1～6回調査)」・(公社)北海道観光振興機構「北海道来訪者満足度調査」をもとに作成

図表 5-2 生産誘発額の推移



※第1回から第5回までの調査においては、直接効果と第一次間接効果の和を「生産誘発効果」とし、第二次間接効果を「家計迂回効果」としていた。

資料：北海道経済部観光局「観光産業経済効果調査(第1～6回調査)」・(公社)北海道観光振興機構「北海道来訪者満足度調査」をもとに作成



観光とはなにか

観光統計上の用語

(1) 観光

- ・余暇、ビジネス、その他の目的のため、日常生活圏を離れ、継続して1年を超えない期間の旅行をし、また滞在する人々の諸活動。

(2) 観光地点

- ・観光・ビジネスの目的を問わず、観光客を集客する力のある施設又はゾーリズム等の観光活動の拠点となる地点を意味し、日常的な利用、通過型の利用がほとんどを占めると考えられる地点は対象としない。

(3) 行祭事・イベント

- ・行祭事とは、地域住民の生活において伝統と慣行により継承されてきた、恒例として日を定め執り行う歴史的催し・祭り、郷土芸能等の集合を意味し、イベントとは、常設又は特設の会場施設において行われる博覧会、見本市、コンベンション等を意味する。

(4) 観光入込客

- ・日常生活圏以外の場所へ旅行し、そこでの滞在が報酬を得ることを目的としない者。観光地点及び行祭事・イベントを訪れた者を観光入込客。

(5) 訪日外国人客

- ・観光入込客のうち、日本以外の国に居住し、観光地点及び行祭事・イベントを訪れた者。

(6) 観光地点等入込客数

- ・観光地点及び行祭事・イベントごとの観光入込客の総数

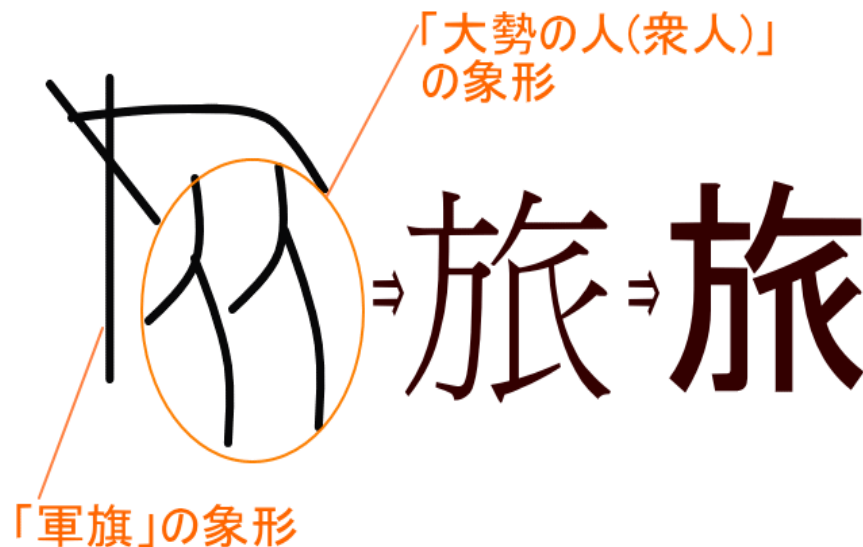
観光に関わる言葉

• 旅・旅行

- 旅・・・多くの人々が軍旗をおしたてて行く
- 行・・・十字路から「みち」「いく」「ととのった列」



- 「日常生活圏」から離れて、他の場所へ行く
- 2つ以上の場所を空間的に移動する



出典：新漢語林

観光に関する言葉

- Tourism・語源はtornus(ろくろ)-巡回旅行
- Tour・組織化された計画的な旅行
 楽しみのために多くの場所を訪れ、また
 出発地にもどる旅行
- Sightseeing・色々な所を見て回る旅行
- Trip・楽しみのために行く短期間の旅行
- Excursion・多くの人と行く短期間の旅行
- Travel・長期間あるいは長距離の旅行
- Journey・離れた場所へ行くこと(陸上の旅行)
- Voyage・船で行く長期間の旅行

現在の「観光」を意味づける 3つの概念

- 「移動」
- 普段の日常生活を離れて楽しみを目的とする旅行など
- 「交流」
- ホストとゲストの2つの文化が交差する文化交流など
- 「事業」
- 観光という社会的な現象を盛んにする様々な活動など

「宿泊旅行」「日帰り旅行」

- 宿泊旅行

- 「自宅以外で1泊以上の宿泊をするすべての旅行」

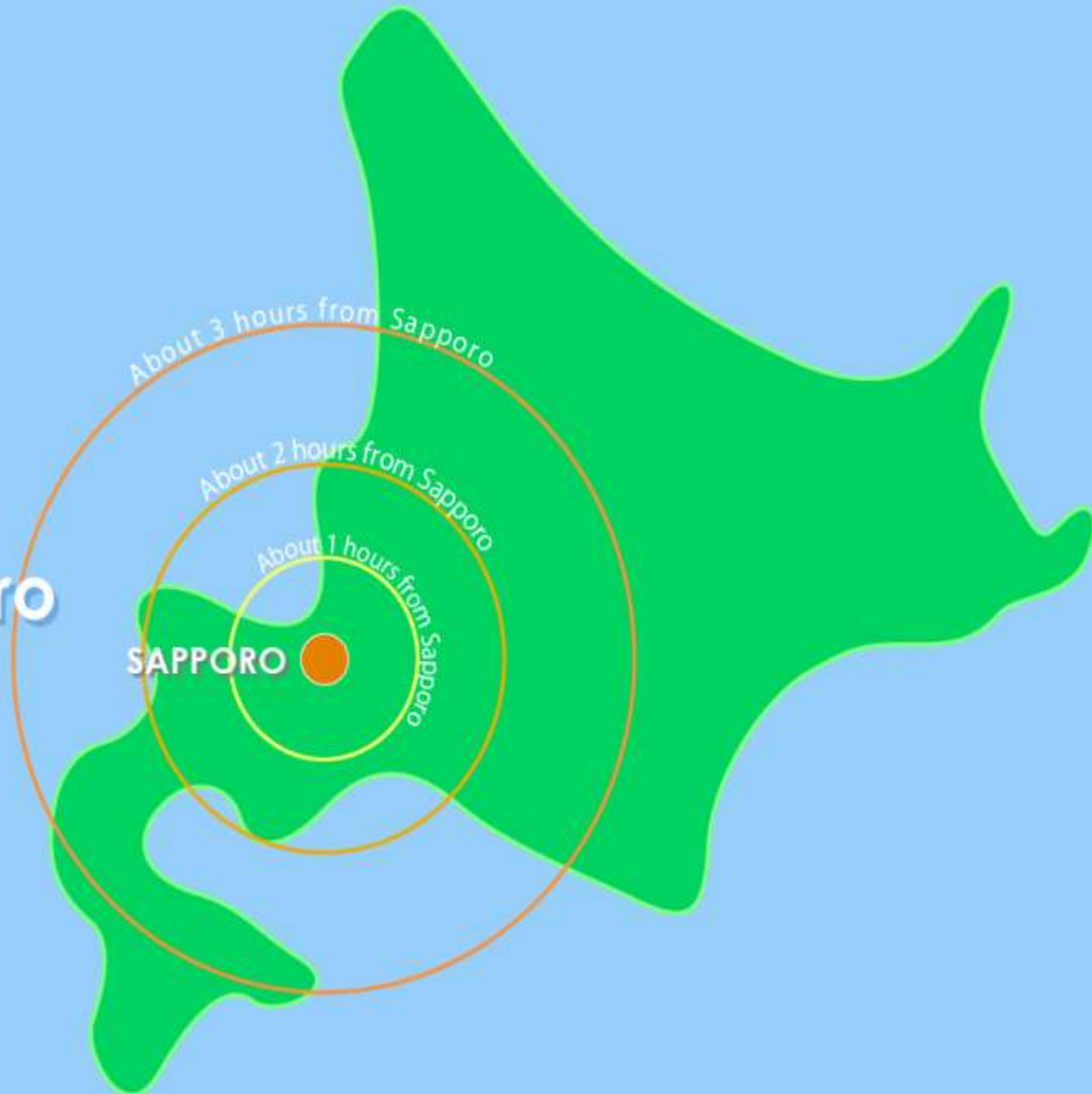
- 日帰り旅行

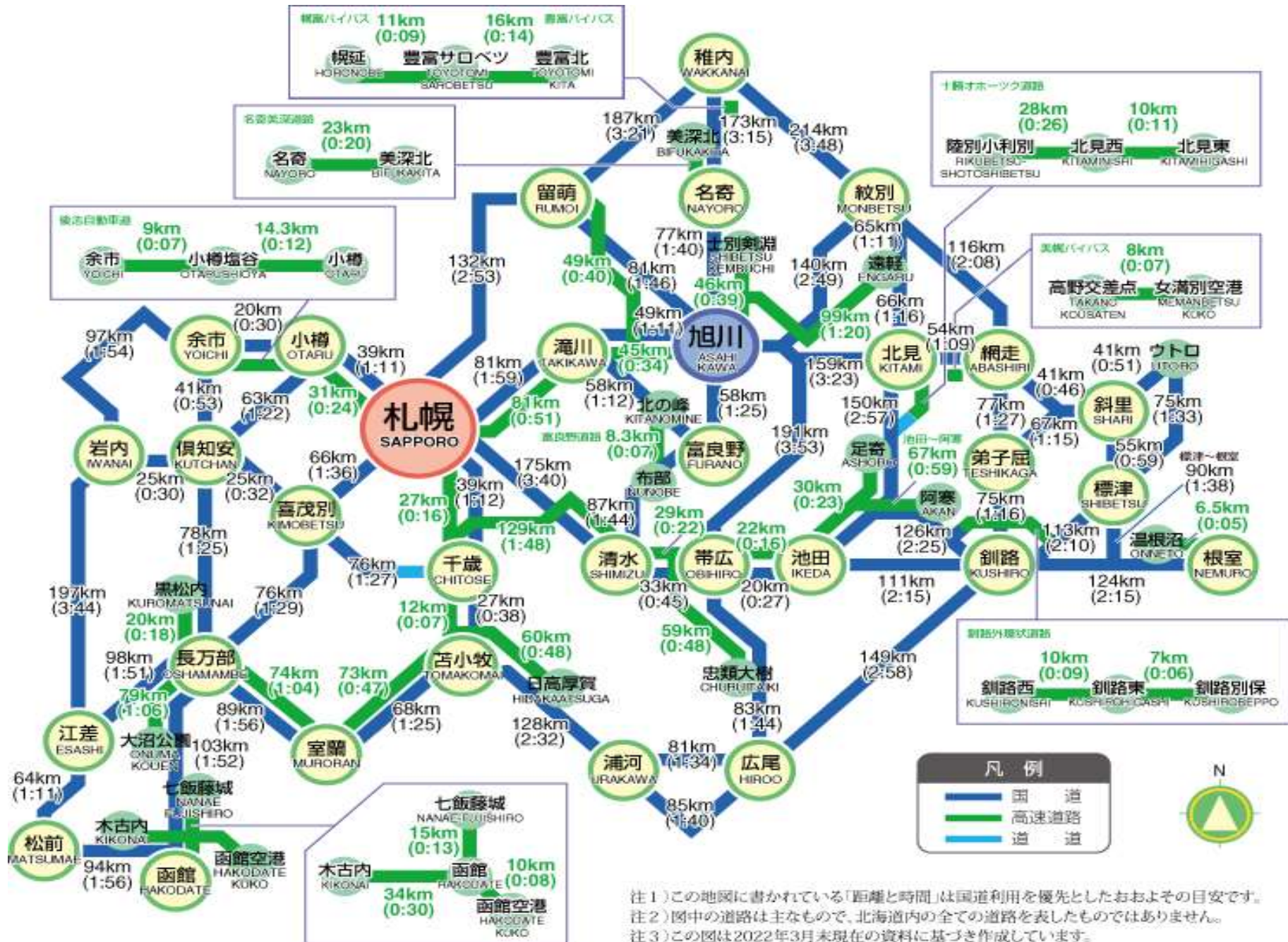
- 「片道の移動距離が80km以上、又は所要時間(移動時間＋滞在時間)が8時間以上の非日常圏への移動」

- 2017年旅行・観光消費動向調査(国土交通省)

Distance sense from Sapporo

札幌からの距離感





北海道高規格幹線道路網図

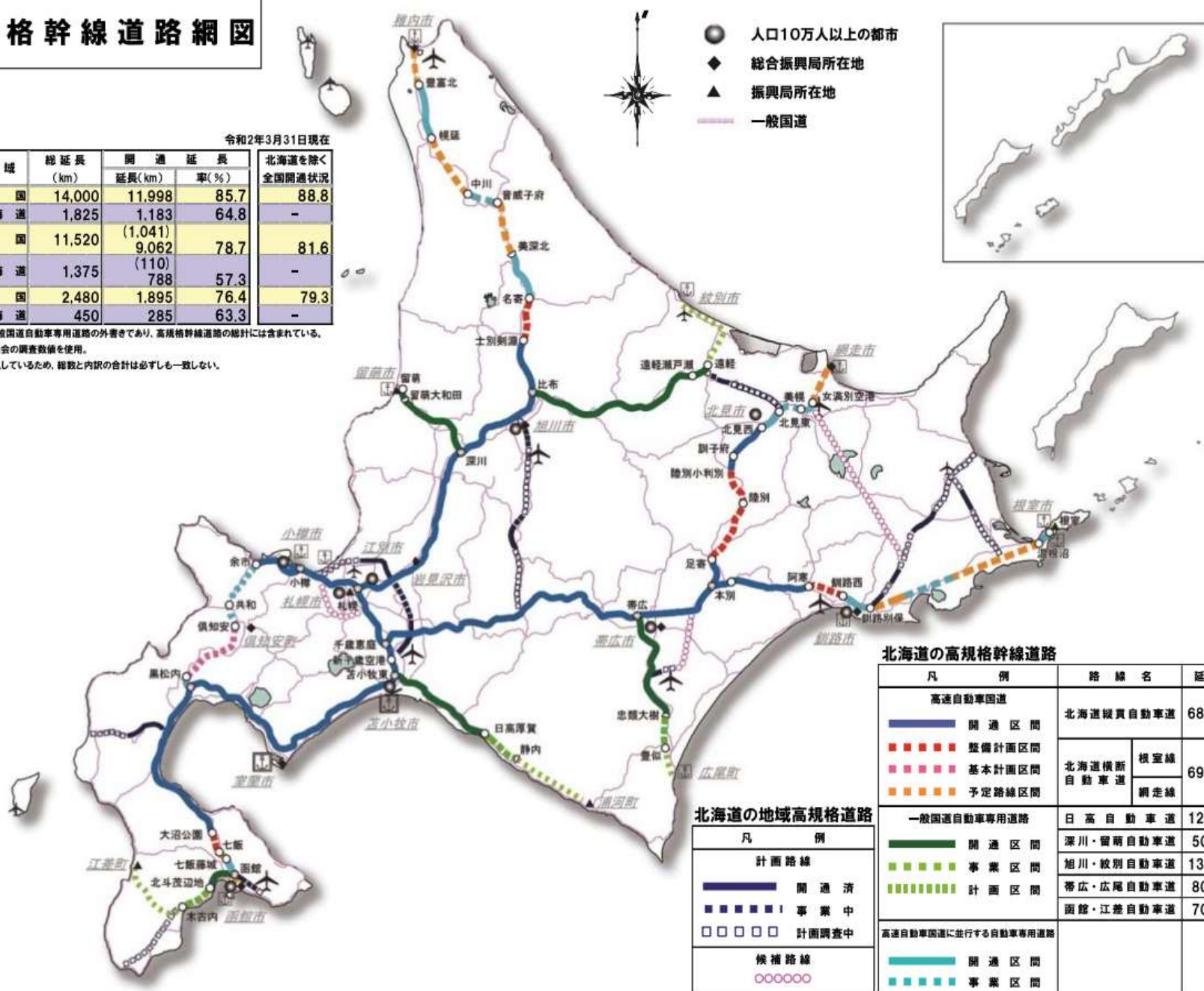
令和2年3月31日現在

区 分	区 域	総延長 (km)	開 通 延 長		北海道を除く 全国開通状況
			延長(km)	率(%)	
高規格幹線道路	全 国	14,000	11,998	85.7	88.8
	北 海 道	1,825	1,183	64.8	-
高 速 自 動 車 国 道	全 国	11,520	(1,041) 9,062	78.7	81.6
	北 海 道	1,375	(110) 788	57.3	-
一般国道自動車専用道路 (本州四国連絡道路含む)	全 国	2,480	1,895	76.4	79.3
	北 海 道	450	285	63.3	-

※()書きは、高速自動車国道に並行する一般国道自動車専用道路の外書きであり、高規格幹線道路の総計には含まれている。

※全国値については、全国高速道路建設協議会の調査数値を使用。

※表の数値は、表裏単位未満の位で四捨五入しているため、細数と内訳の合計は必ずしも一致しない。



北海道

令和2年3月31日

北海道内の旅客運輸分担率

(1) 北海道内(相互間)機関別輸送人員の推移

(単位:千人、%)

区分 年度	鉄 道 ・ 軌 道						自 動 車				船 舶	航 空	合 計	前年度 対 比
	J R			JR以外の鉄道・軌道										
	定 期	定期外	計	定 期	定期外	計	乗合バス	貸切バス	ハイヤー タクシー	計				
28	77,530 (11.4)	55,800 (8.2)	133,330 (19.6)	75,467 (11.1)	163,779 (24.1)	239,246 (35.2)	185,684 (27.3)	16,058 (2.4)	103,216 (15.2)	304,958 (44.9)	1,669 (0.2)	728 (0.1)	679,931 (100.0)	99.9
29	77,704 (11.4)	56,907 (8.4)	134,611 (19.8)	78,233 (11.5)	163,539 (24.1)	241,772 (35.6)	184,072 (27.1)	15,603 (2.3)	101,335 (14.9)	301,010 (44.3)	1,787 (0.3)	775 (0.1)	679,955 (100.0)	100.0
30	77,544 (11.6)	58,833 (8.8)	136,377 (20.4)	79,918 (12.0)	162,055 (24.2)	241,973 (36.2)	180,872 (27.1)	14,159 (2.1)	92,567 (13.8)	287,598 (43.0)	1,651 (0.2)	788 (0.1)	668,387 (100.0)	98.3
元	78,015 (12.0)	55,946 (8.6)	133,961 (20.6)	80,094 (12.3)	158,891 (24.5)	238,985 (36.8)	176,262 (27.2)	12,918 (2.0)	84,513 (13.0)	273,693 (42.2)	1,535 (0.2)	772 (0.1)	648,946 (100.0)	97.1
2	65,111 (14.3)	29,261 (6.4)	94,372 (20.7)	60,799 (13.4)	112,211 (24.6)	173,010 (38.0)	125,986 (27.7)	5,803 (1.3)	55,266 (12.1)	187,055 (41.1)	550 (0.1)	415 (0.1)	455,402 (100.0)	70.2
3	63,361 (13.7)	32,761 (7.1)	96,122 (20.8)	60,650 (13.1)	114,550 (24.8)	175,200 (38.0)	128,660 (27.9)	5,942 (1.3)	54,358 (11.8)	188,960 (41.0)	564 (0.1)	484 (0.1)	461,330 (100.0)	101.3

バス運転手の人数 今後は

2021年までは実績、22年以降は推計 日本バス協会調べ





・ 道民の旅行先

表 I-2-6 旅行先(都道府県)別の旅行者居住地

(単位: %)

居住地		北東北	南東北	北関東	南関東	甲信越	北陸	東海	近畿	中国	四国	九州・沖縄	サンプル数
旅行先	北海道	青森県 岩手県 秋田県	宮城県 山形県 福島県	茨城県 栃木県 群馬県	埼玉県 千葉県 東京都 神奈川県	新潟県 山梨県 長野県	富山県 石川県 福井県	岐阜県 静岡県 愛知県 三重県	滋賀県 京都府 大阪府 兵庫県 奈良県 和歌山県	鳥取県 島根県 岡山県 広島県 山口県	徳島県 香川県 愛媛県 高知県	福岡県 佐賀県 長崎県 熊本県 大分県 宮崎県 鹿児島県 沖縄県	
全体	4.0	2.9	4.1	5.0	30.7	4.1	3.1	11.4	15.9	4.5	2.8	11.5	(6,050)
前年	4.4	3.1	4.0	5.0	30.7	3.9	2.7	11.4	16.2	4.8	2.4	11.4	(5,803)
前今年	4.1	3.0	4.0	5.0	30.5	3.7	2.7	11.6	16.6	4.8	2.5	11.4	(6,511)
北海道	41.5	2.7	3.7	2.8	25.3	2.6	1.3	6.0	8.7	2.6	0.9	1.9	(434)
青森県	4.9	29.0	6.4	7.9	28.1	2.6	0.0	9.2	7.8	1.3	2.9	0.0	(85)
岩手県	5.3	40.4	12.8	2.0	27.7	0.0	1.1	5.2	2.9	1.7	1.0	0.0	(124)
宮城県	2.4	10.5	30.8	4.6	35.2	1.2	0.6	4.3	6.9	1.7	0.9	1.1	(191)
秋田県	3.0	30.1	15.3	1.8	27.7	0.8	3.1	6.1	6.9	3.3	1.2	0.8	(113)
山形県	1.9	4.0	35.2	4.6	32.6	6.1	0.0	7.6	2.7	1.0	2.1	2.2	(95)
福島県	1.2	2.7	28.1	12.6	35.4	8.6	1.4	4.3	0.8	2.6	1.3	1.0	(154)
茨城県	1.8	1.5	7.7	16.7	53.5	3.4	0.0	6.5	5.8	0.7	0.0	2.4	(86)
栃木県	1.0	2.0	5.0	25.7	52.9	3.8	0.4	3.2	3.0	0.0	1.2	1.7	(231)
群馬県	0.0	1.9	4.4	20.7	58.0	7.1	0.3	3.6	2.2	0.6	0.0	1.2	(182)
埼玉県	1.3	2.7	5.8	9.9	58.2	2.0	0.0	7.5	6.8	2.5	0.0	3.3	(84)
千葉県	2.5	2.6	3.3	7.0	53.4	1.3	2.8	11.7	8.0	0.8	2.2	4.3	(324)
東京都	5.2	5.7	4.1	5.4	22.3	4.4	5.3	10.7	15.8	2.0	4.3	14.8	(440)
神奈川県	1.6	1.7	1.4	4.1	63.2	3.9	2.5	7.7	6.8	0.2	0.5	6.5	(345)
新潟県	0.0	0.7	5.7	7.7	44.6	25.2	4.0	4.2	5.0	1.6	0.7	0.6	(160)
山梨県	1.3	0.0	3.0	3.3	21.0	9.1	30.8	10.8	11.1	2.3	1.9	5.5	(93)
石川県	0.0	1.4	1.0	2.3	22.1	6.5	20.0	17.2	22.0	1.8	1.5	4.2	(150)
福井県	0.0	0.0	1.7	3.9	17.4	0.0	17.3	21.5	35.9	0.0	1.7	0.7	(85)
山梨県	1.2	1.6	2.9	2.8	50.5	10.1	1.6	18.1	7.2	2.1	0.0	1.7	(123)
長野県	0.3	1.0	1.6	3.8	45.6	19.0	2.2	16.8	6.3	1.4	0.6	1.3	(329)
岐阜県	2.6	0.0	1.9	2.9	14.8	2.8	7.1	45.0	17.9	2.0	1.6	1.6	(135)
静岡県	0.4	0.2	2.0	3.5	55.3	3.3	0.3	25.4	7.5	0.0	0.7	1.4	(391)
愛知県	1.4	1.6	4.1	3.6	19.8	1.8	6.8	36.0	17.3	1.7	1.5	4.3	(213)
三重県	1.1	0.0	0.0	0.7	16.7	2.9	1.9	39.1	29.7	1.8	3.3	2.8	(144)
滋賀県	0.0	0.0	3.3	3.2	16.6	1.0	3.3	14.1	52.7	3.2	0.5	2.0	(99)
京都府	1.8	0.2	2.7	2.3	23.9	2.5	5.1	14.7	33.3	2.5	3.4	7.6	(306)
大阪府	2.1	0.2	2.7	2.4	27.0	1.9	2.6	15.4	23.5	6.9	2.2	13.2	(315)
兵庫県	0.4	0.5	1.3	1.4	18.4	0.6	1.8	7.4	50.5	5.5	7.2	4.8	(239)
奈良県	2.1	0.0	0.0	0.0	21.2	3.0	0.0	19.0	44.6	1.4	3.1	5.6	(79)
和歌山県	1.0	0.0	1.8	0.0	14.0	2.2	0.0	12.8	62.1	0.9	4.3	0.9	(116)
鳥取県	0.0	2.1	0.0	6.5	11.3	0.0	4.1	10.2	40.6	19.2	6.0	0.0	(59)
島根県	0.0	1.6	2.5	1.6	20.8	3.4	1.2	8.5	20.9	31.8	3.3	4.4	(77)
岡山県	0.0	1.2	1.0	1.2	17.6	1.5	1.7	4.8	32.0	21.2	10.5	7.2	(88)
広島県	0.5	1.1	0.0	0.9	14.4	1.2	1.3	6.0	21.0	32.6	6.0	15.0	(123)
山口県	0.0	1.5	0.0	2.6	14.3	0.0	2.6	2.7	7.0	43.2	2.5	23.7	(82)
徳島県	0.0	0.0	0.0	2.1	22.2	3.6	2.2	14.4	32.8	2.1	12.7	7.9	(45)
香川県	0.0	0.0	0.0	3.0	25.6	2.0	0.7	7.4	30.8	4.8	20.4	5.4	(82)
愛媛県	0.0	1.3	0.0	1.0	19.4	3.4	0.0	5.0	16.2	10.7	35.5	7.7	(101)
高知県	0.0	0.0	1.4	3.1	18.2	1.7	2.4	7.7	23.7	9.1	27.8	5.2	(66)
福岡県	0.6	0.5	1.0	1.8	23.1	0.4	1.6	7.9	9.6	13.2	1.8	38.5	(257)
佐賀県	0.0	0.0	2.7	0.8	15.2	1.7	0.0	3.5	4.1	12.2	0.0	59.9	(72)
長崎県	0.0	0.0	0.4	0.7	17.6	3.0	0.8	5.0	8.3	4.3	1.6	58.2	(129)
熊本県	0.0	0.9	0.5	2.2	13.9	1.3	0.0	3.5	11.5	3.8	1.2	61.3	(108)
大分県	0.0	0.0	1.6	1.6	13.0	0.0	0.0	3.2	9.2	7.7	2.4	61.2	(158)
宮崎県	0.0	0.0	1.0	3.7	13.1	0.0	0.0	5.5	0.0	1.8	0.0	74.9	(55)
鹿児島県	0.5	0.0	2.3	0.0	11.1	0.0	0.0	6.1	12.3	4.7	0.0	63.2	(122)
沖縄県	3.8	0.6	1.1	4.6	31.4	0.7	1.6	10.8	17.9	2.4	2.0	23.1	(190)

(注) 1回の旅行につき、複数の旅行先(都道府県)を選択したデータを含む。表中の数値は表示単位未満で四捨五入して表示している。

■全体の比率より15ポイント以上高い

■全体の比率より10ポイント以上高い

■全体の比率より5ポイント以上高い

資料: (公財) 日本交通公社「JTB旅行実態調査」

表 1-2-6 旅行先(都道府県)別の旅行者居住地

(単位：%)

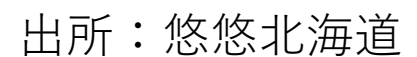
居住地 旅行先	北海道	北東北	南東北	北関東	南関東	甲信越	北陸	東海	近畿	中国	四国	九州・ 沖縄	サンプル数
		青森県 岩手県 秋田県	宮城県 山形県 福島県	茨城県 栃木県 群馬県	埼玉県 千葉県 東京都 神奈川県	新潟県 山梨県 長野県	富山県 石川県 福井県	岐阜県 静岡県 愛知県 三重県	滋賀県 京都府 大阪府 兵庫県 奈良県 和歌山県	鳥取県 島根県 岡山県 広島県 山口県	徳島県 香川県 愛媛県 高知県	福岡県 佐賀県 長崎県 熊本県 大分県 宮崎県 鹿児島県 沖縄県	
全体	4.0	2.9	4.1	5.0	30.7	4.1	3.1	11.4	15.9	4.5	2.8	11.5	(8,050)
前年	4.4	3.1	4.0	5.0	30.7	3.9	2.7	11.4	16.2	4.8	2.4	11.4	(5,803)
前々年	4.1	3.0	4.0	5.0	30.5	3.7	2.7	11.6	16.6	4.8	2.5	11.4	(6,511)
北海道	41.5	2.7	3.7	2.8	25.3	2.6	1.3	6.0	8.7	2.6	0.9	1.9	(434)
青森県	4.9	29.0	6.4	7.9	28.1	2.6	0.0	9.2	7.8	1.3	2.9	0.0	(85)
岩手県	5.3	40.4	12.8	2.0	27.7	0.0	1.1	5.2	2.9	1.7	1.0	0.0	(124)
宮城県	2.4	10.5	30.8	4.6	35.2	1.2	0.6	4.3	6.9	1.7	0.9	1.1	(191)
秋田県	3.0	30.1	15.3	1.8	27.7	0.8	3.1	6.1	6.9	3.3	1.2	0.8	(113)
山形県	1.9	4.0	35.2	4.6	32.6	6.1	0.0	7.6	2.7	1.0	2.1	2.2	(95)
福島県	1.2	2.7	28.1	12.6	35.4	8.6	1.4	4.3	0.8	2.6	1.3	1.0	(154)
茨城県	1.8	1.5	7.7	16.7	53.5	3.4	0.0	6.5	5.8	0.7	0.0	2.4	(86)
栃木県	1.0	2.0	5.0	25.7	52.9	3.8	0.4	3.2	3.0	0.0	1.2	1.7	(231)
群馬県	0.0	1.9	4.4	20.7	58.0	7.1	0.3	3.6	2.2	0.6	0.0	1.2	(182)
埼玉県	1.3	2.7	5.8	9.9	58.2	2.0	0.0	7.5	6.8	2.5	0.0	3.3	(84)
千葉県	2.5	2.6	3.3	7.0	53.4	1.3	2.8	11.7	8.0	0.8	2.2	4.3	(324)
東京都	5.2	5.7	4.1	5.4	22.3	4.4	5.3	10.7	15.8	2.0	4.3	14.8	(440)
神奈川県	1.6	1.7	1.4	4.1	63.2	3.9	2.5	7.7	6.8	0.2	0.5	6.5	(345)

出所：旅行年報 2022 財団法人日本交通公社 旅行先別旅行者居住地

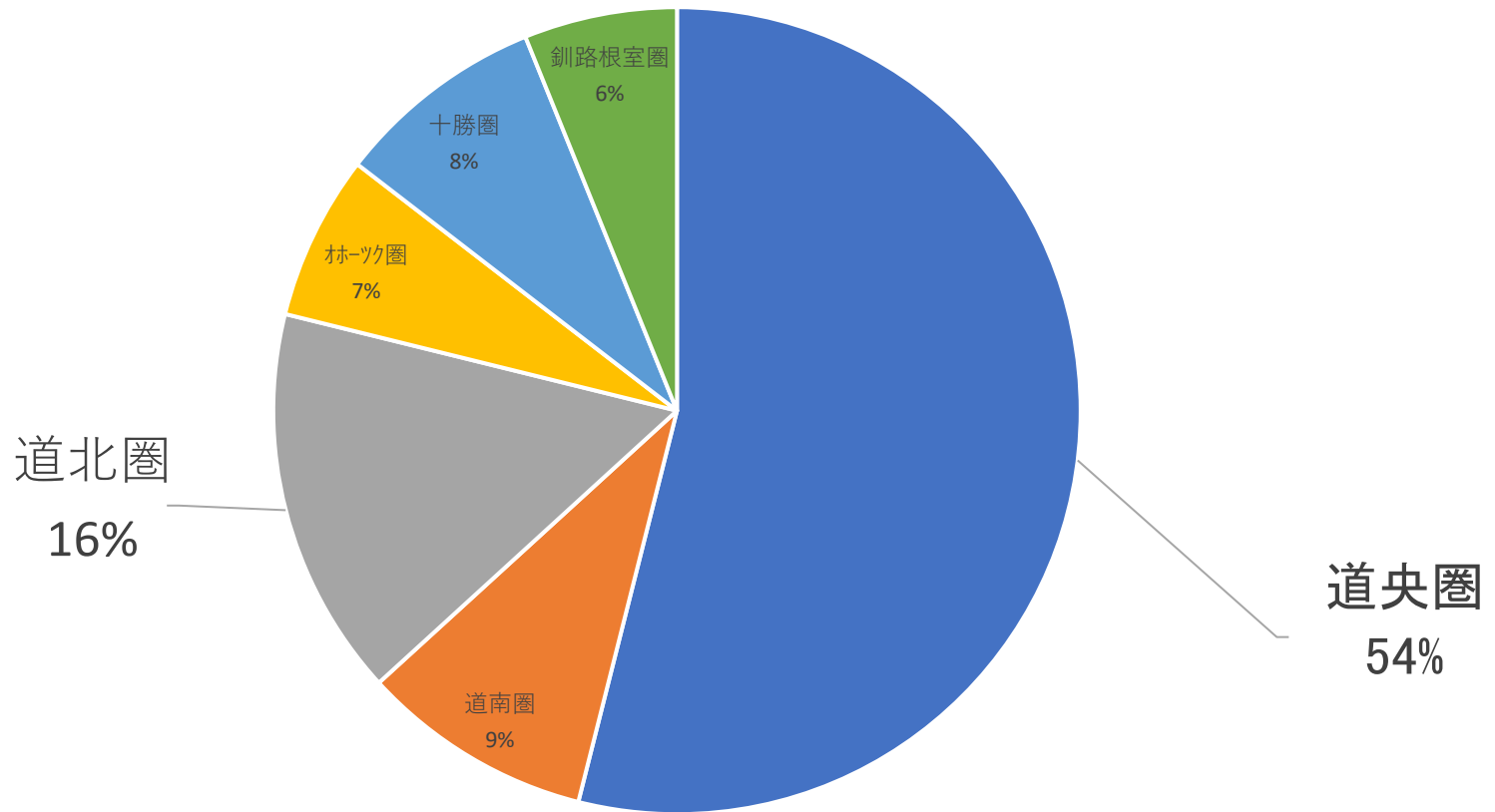
表 I-2-6 旅行先(都道府県)別の旅行者居住地

(単位: %)

居住地 旅行先	北海道	北東北	南東北	北関東	南関東	甲信越	北陸	東海	近畿	中国	四国	九州・沖縄	サンプル数
		青森県 岩手県 秋田県	宮城県 山形県 福島県	茨城県 栃木県 群馬県	埼玉県 千葉県 東京都 神奈川県	新潟県 山梨県 長野県	富山県 石川県 福井県	岐阜県 静岡県 愛知県 三重県	滋賀県 京都府 大阪府 兵庫県 奈良県 和歌山県	鳥取県 島根県 岡山県 広島県 山口県	徳島県 香川県 愛媛県 高知県	福岡県 佐賀県 長崎県 熊本県 大分県 宮崎県 鹿児島県 沖縄県	
新潟県	0.0	0.7	5.7	7.7	44.6	25.2	4.0	4.2	5.0	1.6	0.7	0.6	(160)
富山県	1.3	0.0	3.0	3.3	21.0	9.1	30.8	10.8	11.1	2.3	1.9	5.5	(93)
石川県	0.0	1.4	1.0	2.3	22.1	6.5	20.0	17.2	22.0	1.8	1.5	4.2	(150)
福井県	0.0	0.0	1.7	3.9	17.4	0.0	17.3	21.5	35.9	0.0	1.7	0.7	(85)
山梨県	1.2	1.6	2.9	2.8	50.5	10.1	1.6	18.1	7.2	2.1	0.0	1.7	(123)
長野県	0.3	1.0	1.6	3.8	45.6	19.0	2.2	16.8	6.3	1.4	0.6	1.3	(329)
岐阜県	2.6	0.0	1.9	2.9	14.8	2.8	7.1	45.0	17.9	2.0	1.6	1.6	(135)
静岡県	0.4	0.2	2.0	3.5	55.3	3.3	0.3	25.4	7.5	0.0	0.7	1.4	(391)
愛知県	1.4	1.6	4.1	3.6	19.8	1.8	6.8	36.0	17.3	1.7	1.5	4.3	(213)
三重県	1.1	0.0	0.0	0.7	16.7	2.9	1.9	39.1	29.7	1.8	3.3	2.8	(144)
滋賀県	0.0	0.0	3.3	3.2	16.6	1.0	3.3	14.1	52.7	3.2	0.5	2.0	(99)
京都府	1.8	0.2	2.7	2.3	23.9	2.5	5.1	14.7	33.3	2.5	3.4	7.6	(306)
大阪府	2.1	0.2	2.7	2.4	27.0	1.9	2.6	15.4	23.5	6.9	2.2	13.2	(315)
兵庫県	0.4	0.5	1.3	1.4	18.4	0.6	1.8	7.4	50.5	5.5	7.2	4.8	(239)
奈良県	2.1	0.0	0.0	0.0	21.2	3.0	0.0	19.0	44.6	1.4	3.1	5.6	(79)
和歌山県	1.0	0.0	1.8	0.0	14.0	2.2	0.0	12.8	62.1	0.9	4.3	0.9	(116)
鳥取県	0.0	2.1	0.0	6.5	11.3	0.0	4.1	10.2	40.6	19.2	6.0	0.0	(59)
島根県	0.0	1.6	2.5	1.6	20.8	3.4	1.2	8.5	20.9	31.8	3.3	4.4	(77)
岡山県	0.0	1.2	1.0	1.2	17.6	1.5	1.7	4.8	32.0	21.2	10.5	7.2	(88)
広島県	0.5	1.1	0.0	0.9	14.4	1.2	1.3	6.0	21.0	32.6	6.0	15.0	(123)
山口県	0.0	1.5	0.0	2.6	14.3	0.0	2.6	2.7	7.0	43.2	2.5	23.7	(82)
徳島県	0.0	0.0	0.0	2.1	22.2	3.6	2.2	14.4	32.8	2.1	12.7	7.9	(45)
香川県	0.0	0.0	0.0	3.0	25.6	2.0	0.7	7.4	30.8	4.8	20.4	5.4	(82)
愛媛県	0.0	1.3	0.0	1.0	19.4	3.4	0.0	5.0	16.2	10.7	35.5	7.7	(101)
高知県	0.0	0.0	1.4	3.1	18.2	1.7	2.4	7.7	23.7	9.1	27.8	5.2	(66)
福岡県	0.6	0.5	1.0	1.8	23.1	0.4	1.6	7.9	9.6	13.2	1.8	38.5	(257)
佐賀県	0.0	0.0	2.7	0.8	15.2	1.7	0.0	3.5	4.1	12.2	0.0	59.9	(72)
長崎県	0.0	0.0	0.4	0.7	17.6	3.0	0.8	5.0	8.3	4.3	1.6	58.2	(129)
熊本県	0.0	0.9	0.5	2.2	13.9	1.3	0.0	3.5	11.5	3.8	1.2	61.3	(108)
大分県	0.0	0.0	1.6	1.6	13.0	0.0	0.0	3.2	9.2	7.7	2.4	61.2	(158)
宮崎県	0.0	0.0	1.0	3.7	13.1	0.0	0.0	5.5	0.0	1.8	0.0	74.9	(55)
鹿児島県	0.5	0.0	2.3	0.0	11.1	0.0	0.0	6.1	12.3	4.7	0.0	63.2	(122)
沖縄県	3.8	0.6	1.1	4.6	31.4	0.7	1.6	10.8	17.9	2.4	2.0	23.1	(190)

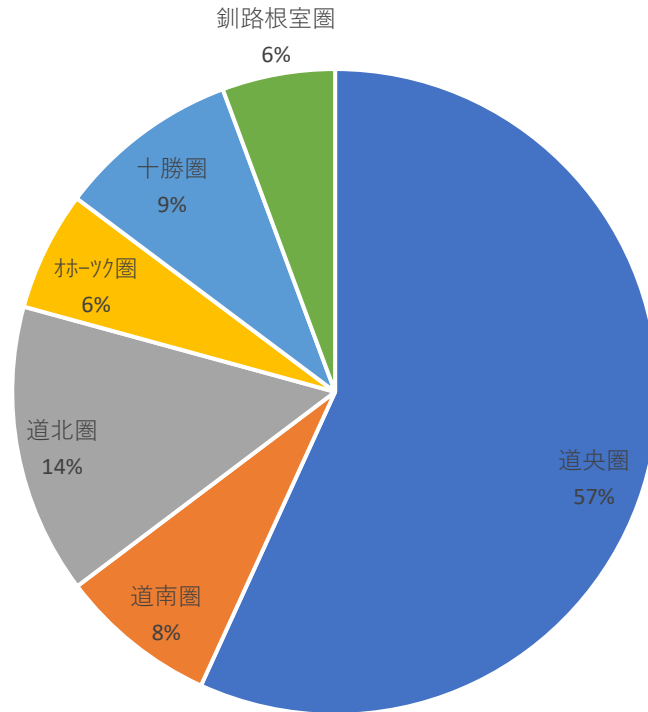


2022年度 圏域別観光入込客数 (延べ人数)

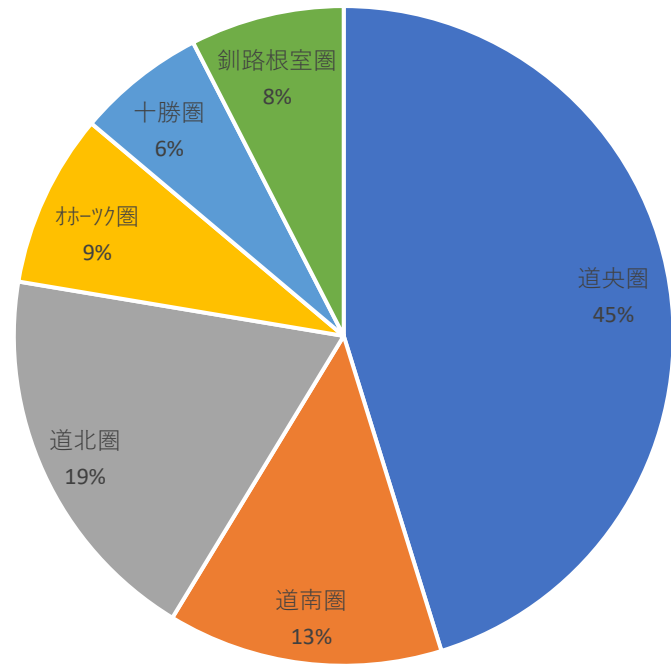


2022年度 圏域別観光入込客数 (延べ人数)

道内客

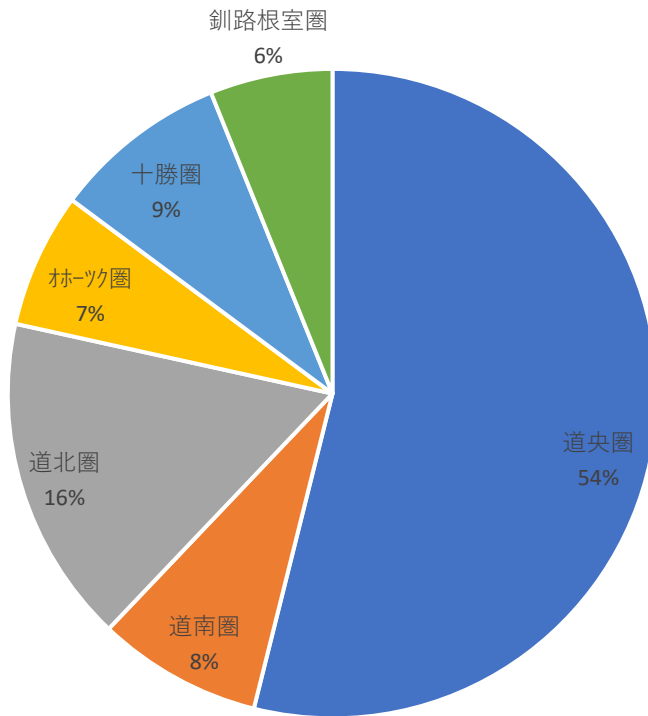


道外客

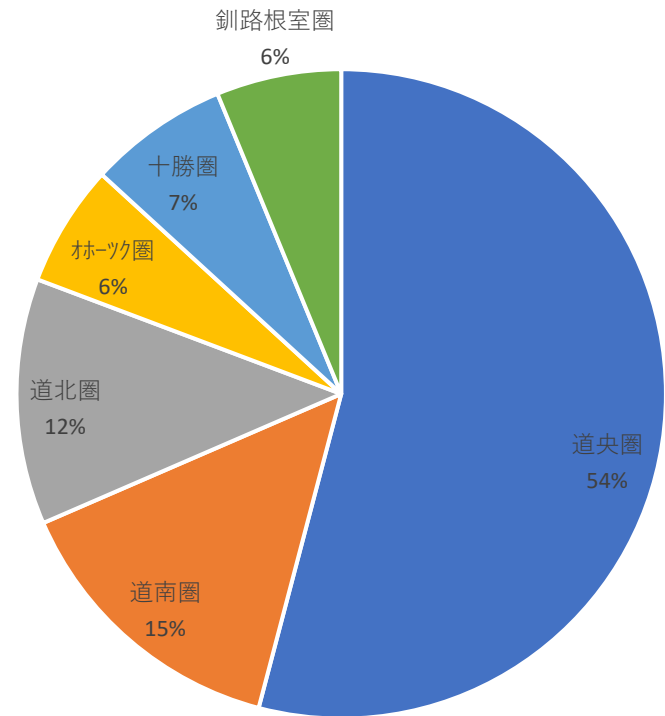


2022年度 圏域別観光入込客数 (延べ人数)

日帰り客



宿泊客



2022年度 観光入込客数

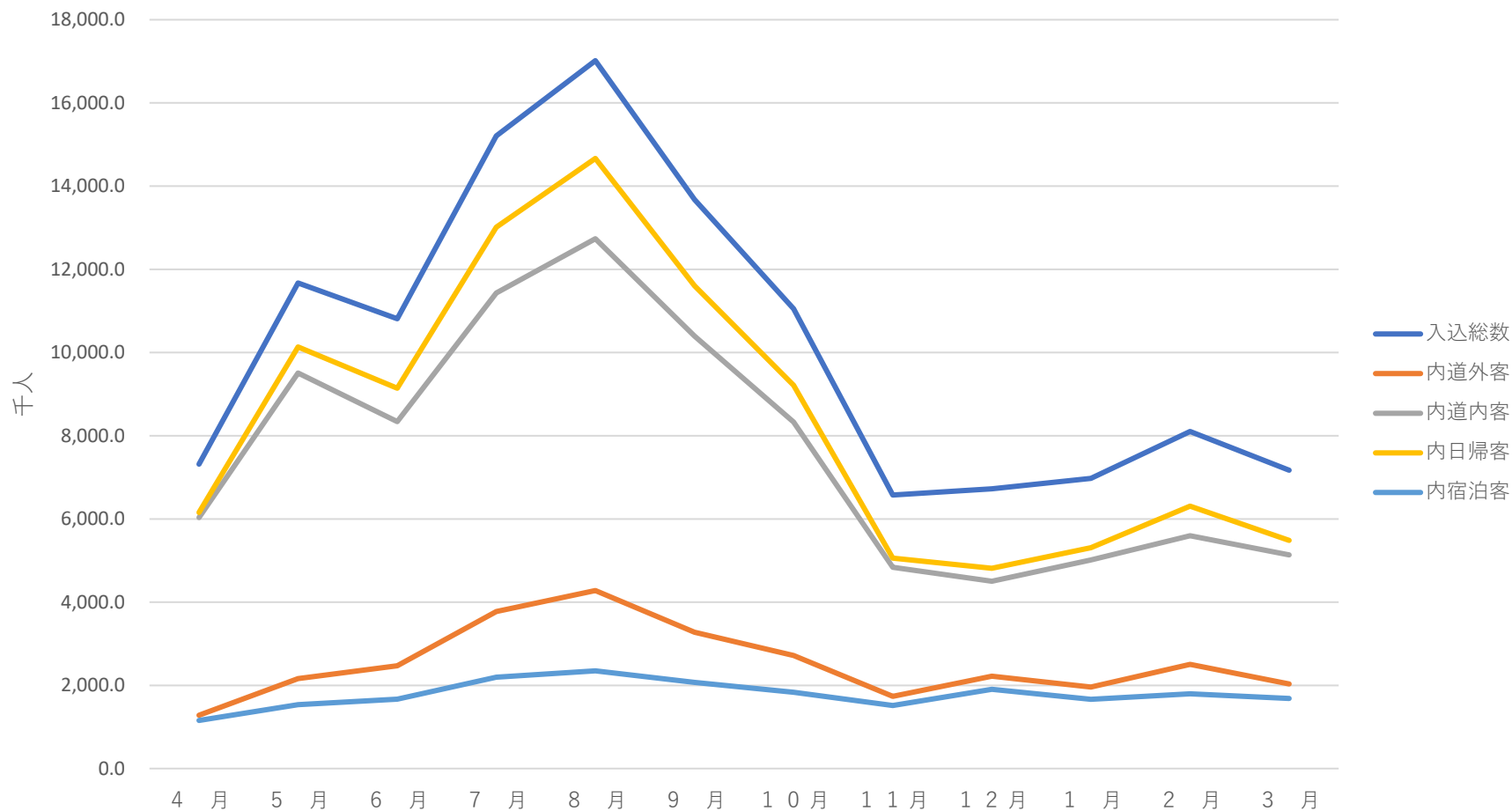
＜観光入込客数(実人数)の多い市町村＞

順位	市町村名	入込客数
1	札幌市	1,311万人
2	函館市	455万人
3	旭川市	414万人
4	小樽市	407万人
5	釧路市	381万人
6	音更町	256万人
7	登別市	234万人
8	喜茂別町	230万人
9	白老町	220万人
10	苫小牧市	213万人
11	恵庭市	201万人
12	石狩市	199万人
13	洞爺湖町	195万人
14	長沼町	186万人
15	七飯町	186万人
16	帯広市	183万人
17	美瑛町	182万人
18	千歳市	175万人
19	富良野市	163万人
20	当別町	163万人

＜宿泊客延べ数の多い市町村＞

順位	市町村名	宿泊客延べ数
1	札幌市	1,299万人泊
2	函館市	353万人泊
3	釧路市	125万人泊
4	帯広市	104万人泊
5	小樽市	88万人泊
6	登別市	88万人泊
7	倶知安町	68万人泊
8	旭川市	67万人泊
9	北見市	58万人泊
10	富良野市	57万人泊
11	占冠村	56万人泊
12	二セコ町	55万人泊
13	洞爺湖町	46万人泊
14	室蘭市	42万人泊
15	網走市	38万人泊
16	留寿都村	34万人泊
17	稚内市	33万人泊
18	音更町	33万人泊
19	千歳市	33万人泊
20	上川町	32万人泊

2022年度 月別観光入込客数 (延べ人数)



出所：北海道観光入込客数調査報告書 2023年 北海道経済部

観光産業の需要変動

- 休暇を取りやすい時期（発地側要因）
 - 例：日本の連休は4-5月/夏休み
 - 中国の連休は春節1-2月・国慶節10月
 - タイの正月は4月中旬
- 渡航規制や急激な為替の変動（発地側要因）
- 自然気象がよい時期（着地側要因）
 - 例：北海道でハワイが売れるのは2-3月
 - 雪が珍しい国からの来道は1-2月
- 自然災害などによる交通機関の不通や観光資源の崩壊（着地側要因）
- など



2022年度 札幌市観光入込客数 (延べ人数)



出所：札幌の観光 2022年 札幌市

2022年度 札幌市観光入込客数 (延べ人数)



図 2-7 道内客・道外客別入込数推移

2022年度 札幌市観光入込客数 (延べ人数)



図 2-5 日帰り客・宿泊客別入込数推移

2022年度 札幌市観光入込客数 (延べ人数)

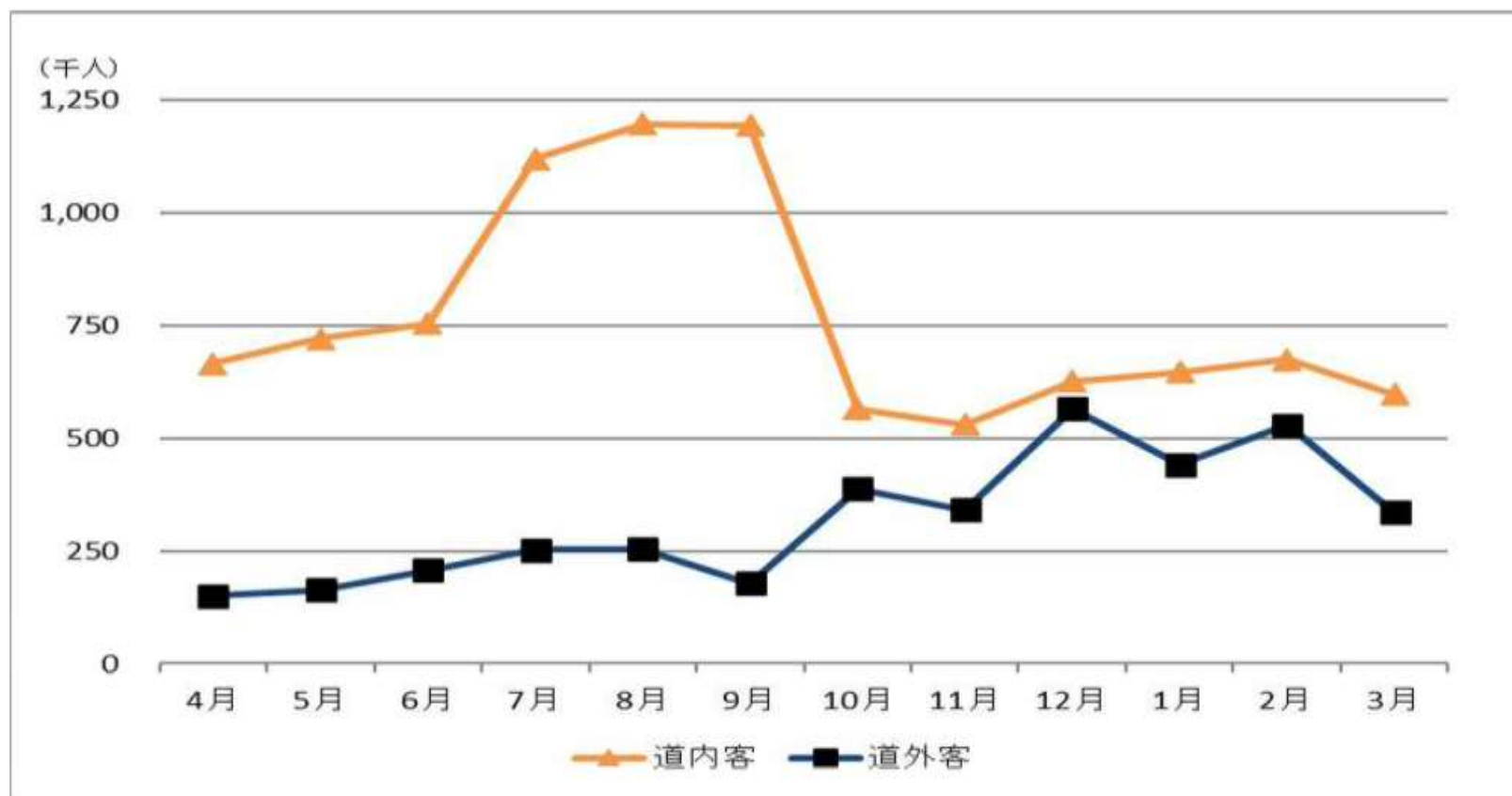


図 2-8 道内客・道外客別入込数月別推移

2022年度 札幌市観光入込客数 (延べ人数)

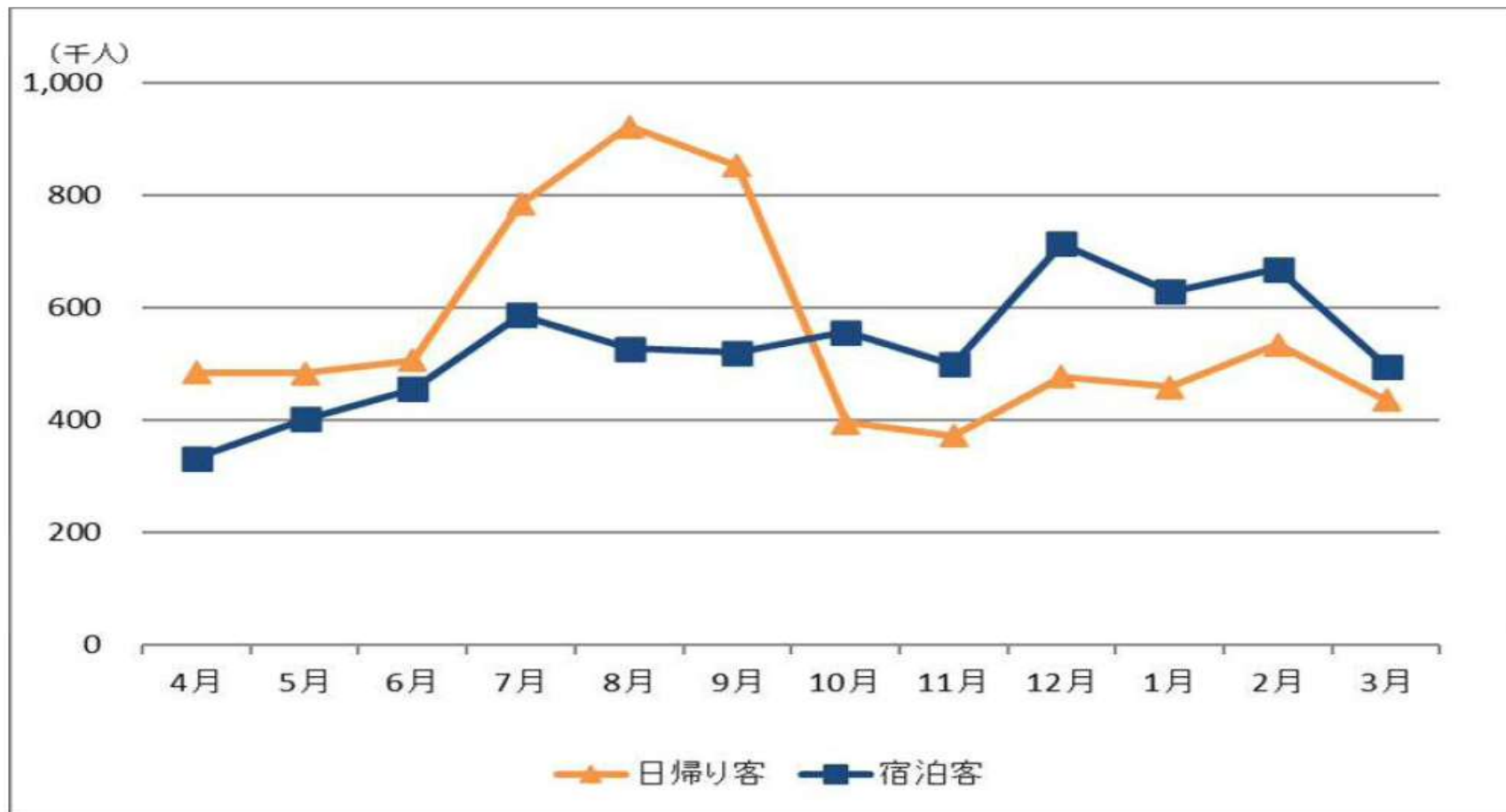


図 2-6 日帰り客・宿泊客別入込数月別推移

出所：札幌の観光 2022年 札幌市

地域ブランド調査2023 都道府県魅力度ランキング

順位		都道府県名	魅力度(点)	
			23年	(22年)
1	(1)	北海道	72.4	(73.3)
2	(2)	京都府	56.6	(57.3)
3	(3)	沖縄県	52.7	(53.6)
4	(4)	東京都	49.0	(49.3)
5	(5)	大阪府	43.3	(43.2)
6	(7)	福岡県	40.4	(40.8)
7	(6)	神奈川県	39.4	(41.6)
8	(8)	奈良県	37.2	(36.9)
9	(10)	石川県	33.4	(33.1)
10	(9)	長崎県	32.3	(35.8)
11	(15)	宮城県	32.2	(29.6)
12	(13)	千葉県	32.1	(32.0)
13	(12)	長野県	31.9	(32.2)
14	(11)	兵庫県	30.6	(32.4)
14	(14)	静岡県	30.6	(30.5)
16	(20)	愛知県	29.1	(25.8)
17	(18)	広島県	26.5	(27.3)
18	(17)	熊本県	26.3	(27.4)
19	(16)	鹿児島県	26.1	(27.6)
20	(19)	青森県	25.2	(26.7)
21	(27)	山梨県	24.5	(23.6)
22	(23)	富山県	23.8	(24.7)
23	(21)	宮崎県	23.7	(25.4)
24	(22)	三重県	23.2	(25.2)

順位		都道府県名	魅力度(点)	
			23年	(22年)
25	(29)	大分県	23.1	(22.5)
26	(25)	新潟県	23.0	(24.3)
27	(23)	秋田県	22.4	(24.7)
28	(32)	香川県	22.0	(22.3)
29	(31)	岩手県	21.7	(22.4)
30	(26)	和歌山県	21.3	(23.7)
31	(28)	山形県	21.1	(23.1)
32	(29)	高知県	20.9	(22.5)
33	(34)	福島県	20.7	(20.0)
34	(36)	愛媛県	20.0	(19.5)
35	(33)	岡山県	19.1	(21.0)
36	(38)	滋賀県	19.0	(18.3)
37	(39)	島根県	18.5	(18.1)
38	(37)	福井県	18.4	(19.0)
39	(34)	岐阜県	18.3	(20.0)
39	(40)	栃木県	18.3	(17.7)
41	(42)	鳥取県	17.3	(17.3)
42	(41)	徳島県	16.6	(17.4)
42	(43)	山口県	16.6	(15.4)
44	(44)	群馬県	16.3	(15.1)
45	(45)	埼玉県	15.8	(14.3)
46	(47)	佐賀県	13.8	(13.2)
47	(46)	茨城県	13.7	(13.5)
47都道府県平均			27.2	(27.7)

地域ブランド調査2023 市区町村魅力度ランキング

順位		市区町村	都道府県	魅力度	
2023	2022			2023	2022
1	1	札幌市	北海道	59.4	63.9
2	2	京都市	京都府	57.8	59.5
3	3	函館市	北海道	56.6	58.7
4	8	金沢市	石川県	53.1	50.9
5	7	鎌倉市	神奈川県	52.0	52.1
6	6	神戸市	兵庫県	51.8	55.7
7	4	横浜市	神奈川県	50.7	56.1
8	5	小樽市	北海道	50.6	55.8
9	9	那覇市	沖縄県	46.4	49.8
10	12	軽井沢町	長野県	46.1	48.8
11	11	富良野市	北海道	45.5	49.0
12	14	仙台市	宮城県	45.1	45.5
13	13	熱海市	静岡県	43.0	45.8
14	10	石垣市	沖縄県	42.8	49.4
14	17	別府市	大分県	42.8	43.0
16	15	日光市	栃木県	40.7	44.3
16	18	沖縄市	沖縄県	40.7	42.2
18	25	箱根町	神奈川県	40.5	38.4
19	24	福岡市	福岡県	38.7	38.7
20	23	伊勢市	三重県	38.4	39.0
21	16	宮古島市	沖縄県	37.9	43.7
22	21	長崎市	長崎県	36.7	40.4
23	22	伊豆市	静岡県	36.1	40.2
24	20	屋久島町	鹿児島県	35.6	41.8
25	19	名古屋市	愛知県	35.3	41.9

順位		市区町村	都道府県	魅力度	
2023	2022			2023	2022
26	27	浦安市	千葉県	35.2	36.6
27	28	宇治市	京都府	34.9	36.5
28	30	倉敷市	岡山県	34.8	35.2
29	26	姫路市	兵庫県	34.3	36.8
30	32	新宿区	東京都	34.1	34.4
30	34	大阪市	大阪府	34.1	34.2
32	29	旭川市	北海道	33.2	36.0
33	34	釧路市	北海道	32.7	34.2
34	42	尾道市	広島県	32.6	32.8
35	43	白浜町	和歌山県	32.4	32.2
36	31	草津町	群馬県	32.0	34.7
36	36	帯広市	北海道	32.0	34.0
38	36	横須賀市	神奈川県	31.9	34.0
39	44	奄美市	鹿児島県	30.9	31.9
39	66	熊本市	熊本県	30.9	29.1
41	51	奈良市	奈良県	30.8	31.1
41	55	由布市	大分県	30.8	30.2
43	60	太宰府市	福岡県	30.4	29.8
44	50	浜松市	静岡県	30.3	31.2
45	45	渋谷区	東京都	30.1	31.7
45	53	志摩市	三重県	30.1	30.3
47	47	茅ヶ崎市	神奈川県	29.8	31.5
47	59	松本市	長野県	29.8	29.9
47	89	千歳市	北海道	29.8	26.5
50	72	飛騨市	岐阜県	29.7	28.3
1000市区町村平均				10.9	11.2



これからの北海道観光

表 I-2-7 旅行先(都道府県)別の最も楽しみにしていたこと

(単位：%)

楽しみ 旅行先	おいしいものを 食べること	温泉に入ること	自然景観を見ること	観光・文化施設 (水族館や美術館、テーマ パーク等)を訪れること	文化的な名所 (史跡、寺社仏閣等)を 見ること	スポーツやアウトドア 活動を楽しむこと	芸術・音楽・スポーツ等 の観劇・鑑賞・観戦	目当ての宿泊施設に 泊まること	帰省、冠婚葬祭関連、 親族や知人訪問	町や都市を訪れること	自然の豊かさを 体験すること	買い物をすること	地域の祭りやイベント	地域の文化を 体験すること	その他	サンプル数
全体	21.3	18.4	9.5	8.5	8.2	6.2	5.4	5.0	3.8	3.5	3.0	2.9	1.8	0.7	1.9	(6,050)
前年	21.4	23.0	10.1	5.5	7.0	6.2	3.1	6.6	4.4	2.7	3.8	2.8	0.7	0.6	2.3	(5,803)
前々年	20.8	20.9	11.1	6.7	8.2	6.0	2.6	5.7	4.3	3.6	3.7	2.5	0.9	0.4	2.4	(6,511)
北海道	29.1	15.6	13.1	4.7	5.6	5.1	5.1	5.5	3.2	2.7	4.4	2.6	1.3	0.6	1.4	(383)
青森県	31.4	11.2	15.7	2.9	6.9	2.9	1.2	4.4	7.7	8.1	2.5	0.0	2.9	0.0	2.4	(45)
岩手県	14.4	23.2	19.2	4.0	3.5	11.5	6.7	3.7	3.4	5.1	4.4	0.0	0.9	0.0	0.0	(62)
宮城県	21.5	19.5	6.3	5.8	5.0	5.4	12.8	7.9	2.9	4.4	2.9	4.0	0.0	0.9	0.5	(128)
秋田県	15.8	28.2	11.0	3.4	7.0	6.1	1.1	7.7	6.1	4.3	1.0	0.0	3.6	2.1	2.7	(56)
山形県	17.7	26.9	12.5	4.9	8.6	2.5	0.0	8.0	2.6	4.9	1.1	2.6	0.0	2.2	5.5	(50)
福島県	21.5	31.6	5.0	4.9	5.2	11.9	0.0	8.9	2.0	1.6	5.5	1.0	0.0	1.0	0.0	(99)
茨城県	22.1	16.4	14.0	10.6	8.3	18.1	0.0	2.5	3.6	0.0	2.5	1.9	0.0	0.0	0.0	(61)
栃木県	18.2	35.8	7.2	6.0	8.3	8.8	2.6	4.3	1.5	0.5	4.3	1.4	0.0	0.3	0.6	(170)
群馬県	10.1	56.6	3.0	2.2	7.5	4.5	0.5	1.3	1.0	3.2	3.3	1.9	0.9	0.8	3.1	(132)
埼玉県	8.1	20.2	7.7	1.9	13.7	2.6	5.5	3.4	12.2	4.5	6.2	5.3	3.8	0.0	4.9	(47)
千葉県	21.3	7.8	6.5	36.2	3.6	6.8	3.2	2.5	1.9	2.1	1.8	2.6	0.9	0.7	2.0	(235)
東京都	16.4	2.1	1.6	9.5	4.3	2.0	23.5	7.5	8.0	13.2	0.5	5.8	1.9	0.9	2.8	(281)
神奈川県	20.8	24.9	8.3	7.8	4.8	3.0	4.2	7.2	3.9	1.4	3.4	1.0	3.6	0.4	5.0	(238)

表 I-2-11 旅行先(都道府県)別の現地活動(複数回答)

現地活動 旅行先	温泉	現地グルメ・名物料理	自然や景勝地の訪問	町並み散策・まち歩き	ショッピング・買い物	歴史・文化的な名所の訪問	都市観光	観光施設・動物園・水族館	テーマパーク・レジャーランド	ドライブ	家族や親戚、友人・知人訪問	美術館・博物館	(観劇、コンサート、ライブ等) 芸術鑑賞	祭り・イベント	リゾート滞在(海浜)	リゾート滞在(高原)	季節の花見	スポーツ観戦
全体	41.6	36.4	35.3	27.7	25.6	24.2	14.2	10.5	9.3	7.8	6.2	6.1	4.4	4.3	3.9	3.3	3.1	2.9
前年	46.1	34.6	35.9	23.6	21.4	21.3	11.8	8.7	6.8	8.2	6.1	5.3	2.9	2.2	3.7	3.1	3.0	1.7
前々年	44.8	34.7	39.6	25.9	22.0	24.2	14.6	8.9	7.1	7.5	6.3	5.5	2.2	2.9	4.1	3.4	2.7	1.4
北海道	49.9	46.3	47.2	27.8	27.9	17.1	19.3	12.8	5.3	11.8	8.5	4.2	2.5	4.5	0.7	5.5	3.9	4.5
青森県	47.7	33.1	54.6	23.9	18.3	29.4	18.1	4.4	3.2	7.4	5.3	2.9	0.0	12.2	0.0	0.0	0.0	0.0
岩手県	43.2	35.6	36.8	18.8	24.1	16.1	11.4	3.6	3.6	7.7	4.3	7.0	4.6	0.9	4.0	0.0	1.6	3.7
宮城県	47.9	35.8	32.0	24.6	26.4	18.4	16.7	8.9	4.6	8.5	4.6	1.3	7.1	1.5	3.1	1.3	1.5	8.4
秋田県	57.8	23.1	22.8	19.8	19.5	8.4	0.0	5.8	5.2	13.1	7.8	2.0	0.0	8.2	1.9	0.0	14.4	0.0
山形県	58.7	35.0	38.5	23.6	16.9	25.1	10.6	6.3	2.5	10.7	3.7	6.2	0.0	4.2	0.0	2.5	2.3	2.5
福島県	61.9	21.1	26.2	9.6	18.9	14.4	4.5	1.6	8.6	5.5	3.7	3.2	0.0	2.1	2.1	8.3	5.5	0.0
茨城県	30.6	23.3	37.5	18.4	21.1	23.2	7.8	16.7	8.3	5.9	4.6	3.8	0.0	3.0	0.0	1.9	6.0	0.0
栃木県	62.3	30.3	43.2	14.8	19.6	20.9	6.2	16.0	11.4	9.1	2.6	4.0	0.9	1.3	1.2	8.3	5.0	0.0
群馬県	74.5	22.7	30.2	36.5	19.4	19.8	8.2	3.5	4.0	8.3	4.5	3.3	0.0	1.5	0.0	2.8	3.6	0.5
埼玉県	27.8	18.8	23.5	17.1	10.1	9.9	3.2	6.6	4.1	3.1	19.2	1.2	4.0	4.9	0.0	0.0	1.2	5.5
千葉県	28.8	25.5	22.8	8.8	24.9	7.6	3.1	7.7	41.2	7.3	5.5	1.0	3.1	3.7	5.1	1.4	1.1	0.9
東京都	5.5	31.4	7.5	24.4	36.1	10.0	28.0	9.2	11.5	0.9	13.0	8.0	20.1	3.7	1.7	0.4	0.3	5.9
神奈川県	39.6	31.9	34.1	31.1	27.6	19.6	13.9	13.1	6.9	6.3	5.9	11.3	2.3	5.9	4.0	3.0	4.3	1.2

創意工夫がもとめられていく これからの北海道観光

- 事例①
- アドベンチャーツーリズムからの示唆
- 事例②
- 学びの旅・持続可能な観光・再生観光



ADVENTURE TRAVEL **WORLD SUMMIT**

HOKKAIDO, JAPAN

11-14 SEPTEMBER 2023



大倉山ジャンプ競技場で開催されたオープニングセレモニー（画像トラベルボイス）



札幌コンベンションセンターで開かれた総会（画像トラベルボイス）

アドベンチャートラベル・ワールド サミット北海道2023

- 9月4日～10日：プレサミット・アドベンチャー(PSA)
 - 北海道以外の地域を含む22コース
- 9月11日： デイ・オブ・アドベンチャー(DOA)
 - 北海道内31コース
- 9月12日～14日：セレモニー、商談会、各種講演会等
- 参加者；日本を含め64カ国・地域から約750人
- ジャーナリスト及びインフルエンサーは17カ国・地域から約50人
- バイヤーの旅行会社が21カ国・地域から約100人

アドベンチャーツーリズム (ADVENTURE TOURISM)

- 旅行者が地域独自の自然や地域のありのままの文化を、地域の方々とともに体験し、旅行者自身の自己変革・成長の実現を目的とする旅行形態
- アクティビティは地域をより良く知り、地域の方々と深く接する手段の一つであり、近年はハードなものより、むしろ散策や文化体験等のソフトで簡易なものが主流となってきている。
- 旅行者の特徴として、教育水準の高い富裕層の割合が高く、平均で14日間と長期の滞在を好み、アウトドアギア(用具、装備)にもこだわる層が多い
- 北米・欧州・南米の主要地域ではそれぞれの国内市場を除く海外での消費額のみで推計6830億ドル(76.5兆円)の経済効果があるとされている。

2023 エクスカーション予定地 道内マップ

※エクスカーション＝主となるサミットに付属するツアー



Pre-Summit Adventure (4泊程度のコース)

難易度とは

- 1: Relaxed/Social (緩やか:文化体験、軽いアクティビティ、野生動物観察)
- 2: Easy/active (初級:1日あたり2〜4時間の簡単な身体的活動)
- 3: Moderate (中級:ある程度の体力が必要、1日あたり約4〜6時間の身体的活動)
- 4: Vigorous (活発:1日あたり5〜8時間の身体的活動、それに見合う体力と経験が必要)
- 5: Challenging (挑戦的:最大8時間以上の身体的活動、それに見合う体力と経験が必要)



Day of Adventure (日帰りコース)

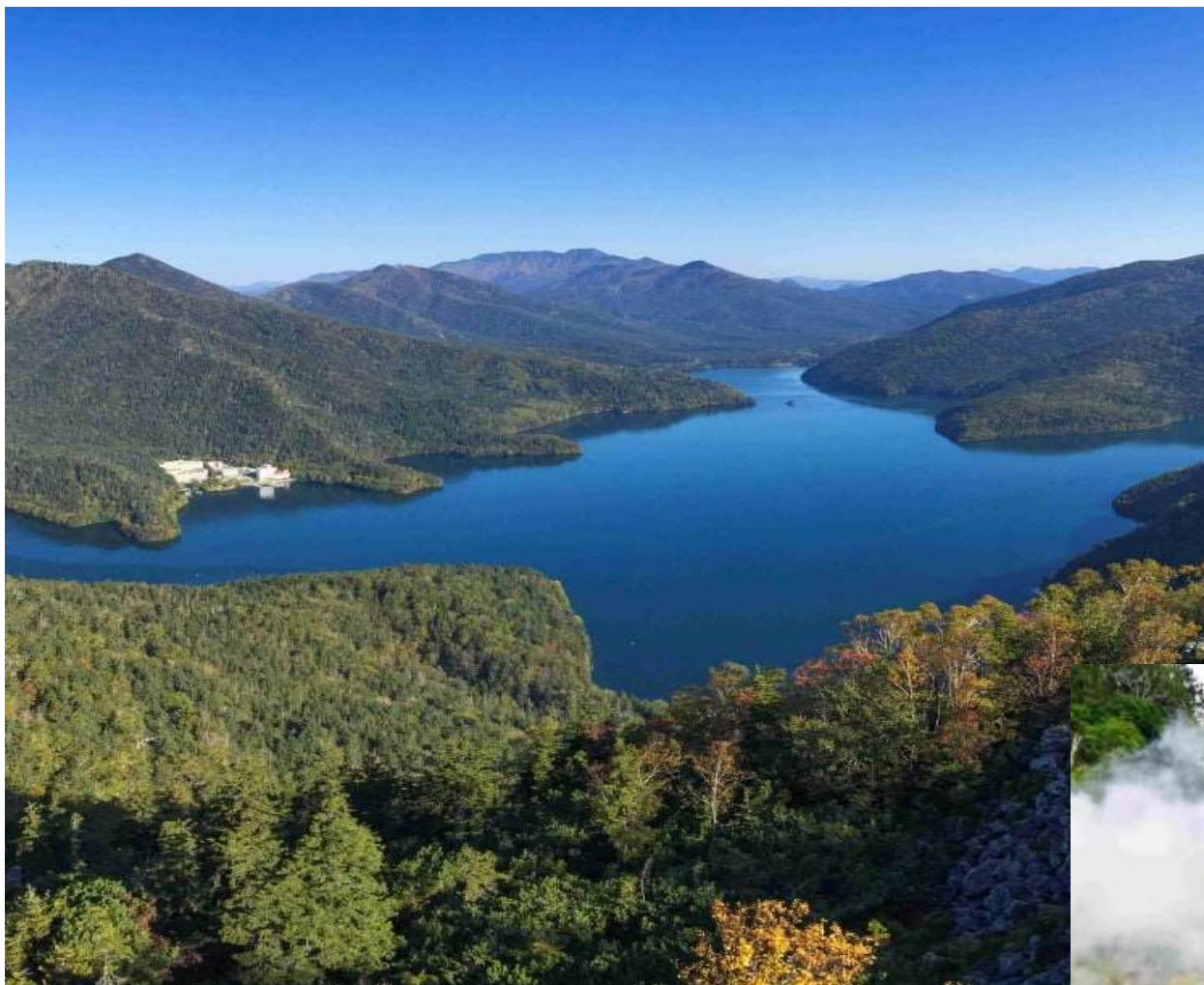
No	ツアータイトル	メインアクティビティと開催地域	難易度
1	アイヌの伝統・歴史・文化を学ぶカムイヌプリ軽登山ツアー	軽登山(白老、登別)	3
2	硫黄山登山と温泉体験でニセコの豊かな自然を体感する	登山(ニセコ)	3
3	天上の温泉雨竜沼温泉秘境トレッキング	トレッキング(雨竜)	3
4	夕張の歴史を体験トレッキングツアー〜炭鉱から観光へ〜	トレッキング(夕張)	2
5	小樽近郊の酒造りのルーツを辿る(天狗山トレッキングツアー)	トレッキング(小樽)	2
6	大雪山国立公園・黒岳ロープウェイとトレッキング	軽トレッキング(上川)	1
7	三笠ジオパークで北海道の開拓史を体感するガイドウォーキングツアー	ウォーキング(三笠)	2
8	ゼロカーボンパーク美瑛 苔の回廊ハイキングとクワカヤック	ハイキング&カヤック(千歳)	2
9	十勝岳ジオパーク・アドベンチャー ハイイク&バイクin 富良野	ハイキング&サイクリング(上富良野)	2
10	港町小樽で海と断崖の絶景トレッキング	トレッキング(小樽)	3
11	ニセコアンヌプリサイクリング&トレッキング	サイクリング&トレッキング(ニセコ)	3
12	石狩の自然、歴史、サケ文化をサイクリングで体感	サイクリング(石狩)	3
13	北海道開拓から続く歴史と産業をめぐる北広島サイクリング	サイクリング(北広島)	2
14	札幌市南区の開拓歴史を巡るサイクリングと軽登山ツアー	サイクリング&軽登山(札幌)	2
15	美瑛サイクリングツアーと北海道最古の酒造を訪ねる旅	サイクリング(美瑛)	1
16	都会の近くで発見!ウトナイ湖の大自然満喫ツアー	サイクリング(苫小牧)	2

No	ツアータイトル	メインアクティビティと開催地域	難易度
17	【ルスツ・洞爺湖畔】MTBツーリングロングコース	マウンテンバイク(ルスツ・洞爺湖)	2
18	千歳川1DAYリバーカヌーと世界文化遺産登録地「キウス国史跡群」	カヌー(千歳)	2
19	積丹ブルーを体験!マリナドベンチャー&絶景ハイキング	シーカヤック、シュノーケリング(泊)	3
20	【釧路】の目録で札幌・帯広・川内をサイクリングし、上置の登山道でカヌー	サイクリング&カヌー(札幌)	3
21	ニセコ・サステナブル・ライフスタイル〜自然食&カヌー〜	カヌー(ニセコ)	2
22	大雪山国立公園唯一の自然湖「然別湖」カヤック&リバーウォッチング	カヤック(然別湖)	2
23	ニセコ尻別川ラフティングツアー	ラフティング(ニセコ)	2
24	羊蹄山麓での水との共生 / Bringing Water to Life from Mount YOTEI	ラフティング、ハイキング、文化体験(ニセコ)	1
25	十勝川源流地域で日本の伝統的なタンカラでオシロコマを釣る	フィッシング(新得)	2
26	アイヌとゆるい歴史散策:日帰りガイド付き先住民文化ツアー	先住民文化体験&軽ハイキング(旭川)	1
27	白老アイヌ文化体験とポロの森ハイキング	異文化体験&ハイキング(白老)	1
28	今と昔を歩く札幌中心部のアイヌ文化ガイドツアー	異文化体験(札幌)	2
29	世界が驚く!アイヌパッチワークと文化交流	文化交流(白老)	1
30	岩手地区100年変わらない山と海の暮らし体験ツアー	地域交流(井田、岩内)	1
31	通り鳥の視点で旅する石狩川〜空知ラフティングとグライダー	グライダー&ラフティング(滝川)	1

出所:北海道経済部観光局観光振興課

プレサミット・アドベンチャー(PSA)例

- HOKKAIDO – AROUND DAISETSUZAN, 6-DAY HIKING TOUR
- OPERATOR; Hokkaido Treasure Island Travel Inc.
- PRICE : JPY 228,000
- MINIMUM SPOTS; 4 DAYS: 6 DIFFICULTY: 4/5
- 大雪山国立公園の北部の旭岳と黒岳の2つの主要峰の間を横断し、南の然別湖まで探索
- 旭岳と黒岳の2つの主要ピークを横断する 北海道の先住民族であるアイヌと出会い、学ぶ
- ヒグマの生息地である大雪高原温泉の登山道探索
- 白雲山山頂から然別湖を眺める
- 十勝火山群の富良野岳をハイキングする



出所：Adventure Travel Trade Association

デイ・オブ・アドベンチャー(DOA)例

- RAFTING & GLIDING IN SORACHI – ISHIKARI RIVER
- OPERATOR
- HOKKAIDO CHUO BUS Co., Ltd.
- MINIMUM SPOTS:4 DAYS:1 DIFFICULTY :2/5
-
- 日本三大河川の一つである石狩川沿いのラフティング体験。
- 滝川スカイパークでのグライダー滑空体験。
- 石狩川から川特有の歴史や文化を学び、知る。
- 宮島沼で自然の世界的なダイナミズムを観察。



出所：Adventure Travel Trade Association

デイ・オブ・アドベンチャー(DOA)例

- CENTRAL SAPPORO AINU CULTURE WALKING TOUR
- OPERATOR; Ezosika Travel Co., Ltd.
- MINIMUM SPOTS 4 DAYS 1
DIFFICULTY 1
- サクシュコトニ川沿いのアイヌ民族の生活の痕跡をたどる。
- アイヌ文化の現代的な表現を体感。
- アイヌの伝統楽器「ムックリ」を演奏。
- 地元の食材を使ったアイヌ料理を堪能。



デイ・オブ・アドベンチャー(DOA)例

- DAISETSUZAN NATIONAL PARK FOREST WALK & CABLE CAR RIDE
- OPERATOR: Daisetsuzan Tours
- MINIMUM SPOTS 4 DAYS 1 DIFFICULTY 1
- 大雪山国立公園森林ハイキングとケーブルカー乗車
- ロープウェイからの息を呑むような紅葉の景色
- 黒岳の標高7,1mにある510合目のハイキングコース
- 経験豊富な山岳ガイドによるユニークな野生生物についての説明
- 地元酒蔵の酒粕など、地元産の酒粕を使ったランチや甘酒など。



アドベンチャーツーリズム

- 「自然とのふれあい/Interaction with Nature
- 「文化交流/Cultural Exchange」
- 「フィジカルなアクティビティ/Physical Activities」
の3つの要素のうち2つ以上が主目的である旅行形態
- 「アドベンチャー・トラベラー」が旅行を通じて求める体験価値がある
- （Adventure Travel Trade Associationによる定義）



- 旅行者が
- 地域独自の自然や地域のありのままの文化を、
- 地域の方々とともに体験し、
- 旅行者自身の自己変革・成長の実現を目的とする旅行形態

ATTAが提唱するATにおける5つの体験価値

アクティビティ、自然、文化体験の3要素のうち、
2つ以上で構成される旅行



Traveler Experience

①	The Novel and Unique いままでにない ユニークな体験	その他の場所では味わえない、 その地ならではの体験がある
②	Transformation 自己変革	体験を通じて、自己が成長・変 化していくことを感じることが できる
③	Wellness 健康であること	旅行前より心身ともに健康に なった感覚を得ることができる
④	Challenge 挑戦	身体的・心理的にさまざまな意 味合いでの「挑戦」の要素が体 験に含まれている
⑤	Impact ローインパクト	体験にあたって、文化や自然に 対してインパクトを最低限に抑 えられていると感じられる

出所：ATTA JTB総合研究所提供)

アドベンチャーツーリズムの課題

- 「アドベンチャートラベル」という言葉の響きから、どうしても屋外のハードな体験が連想されてしまう
- 移動をしながら、各地で体験や地域の文化に親しむためには、旅行日数が増え、1人当たりの旅行費用は高くなる。
- 経済効果が高いことから、現在のところ訪日外客の富裕層に照準をあわせている。日本人向けの商品造成は前提になっていない。

アドベンチャーツーリズムの課題

アドベンチャーツーリズムとは何か

アドベンチャーツーリズムのアクティビティの種類

travel
voice

- アドベンチャートラベルには大きく、ソフト、ハード、専門の3つの種類のアクティビティが存在。教育旅行や異文化体験、ヨガ等幅広いアクティビティが定義に含まれます

1

ソフト

SOFT ADVENTURE

- ・ トレッキング
- ・ ハイキング
- ・ カヤック
- ・ カヌー
- ・ スキューバダイビング
- ・ キャンプ
- ・ サファリ
- ・ 乗馬
- ・ サイクリング
- ・ 文化イベントへの参加
- ・ 食文化体験
- ・ セーリング 等

2

ハード

HARD ADVENTURE

- ・ 登山
- ・ マウンテンバイク
- ・ パラグライダー
- ・ スカイダイビング
- ・ ケービング
- ・ ヘリスキー
- ・ カイトサーフィン具
- ・ スキー
- ・ スノーボード
- ・ サンドボード
- ・ ラペリング/アブセーリング
- ・ ハンドグライダー
- ・ ロッククライミング
- ・ サーフィン 等

3

専門

SPECIALIZED

- ・ バードウォッチング
- ・ 教育旅行
- ・ **異文化体験**
- ・ 探検
- ・ **ボランティアツーリズム**
- ・ **ヨガ**
- ・ マインドフルネス プログラム
- ・ 内省のためのリトリート 等

「アドベンチャートラベル」という言葉の響きから、どうしても
屋外のハードな体験が連想されてしまう

アドベンチャーツーリズムの課題

- 「自然とのふれあい/Interaction with Nature」
- 「文化交流/Cultural Exchange」
- 「身体活動/Physical Activities」
- の3つの要素のうち2つ以上が主目的である旅行。



- 自然の中の一つだけの体験だけでなく、それらの体験を組み合わせたものが海外基準
- 移動をしながら、各地で体験や地域の文化に親しむためには、日数が増え1人当たりの旅行費用は高くなる。

アドベンチャーツーリズムの課題

- 経済効果が高いことから、現在のところ訪日外客の富裕層に照準をあわせている



- 日本人向けの商品造成は前提になっていない。
- そのため、北海道の中でも認知されていない。

北海道でのアクティビティ 例

- 乗馬体験(札幌市南区 八剣山山麓)



北海道でのアクティビティ 例

- 自分だけの大きな『白い恋人』を作ろう！ < 白い恋人パーク >



北海道でのアクティビティ 例

- 網走 リバーカヤックツアー



北海道でのアクティビティ 例

- 旭川の近郊、鷹栖町の大雪原で「犬ぞり」体験
【12月～3月】



北海道における アドベンチャーツーリズムの課題

- 体験メニューは多いが、それをどのように旅行に取り入れるかなどの加工ができていない。
- 盛りだくさんのメニューになり、時間的に余裕がない。
- 選択の幅がまだまだ少ない。



- 既存のツアーにもう少し濃い体験価値を感じさせる工夫をする。
- 特にTransformation(自己変革＝体験を通じて自己の価値観が変化したり、世のなかの見方が変わったりすること)を意識させることが大切。


月形樺戸博物館開館50周年記念特別企画!

☆あなたは知っていましたか?
 知られざる集治監の歴史を月形町で学ぶ!

☆二人の名誉館長が
 樺戸集治監の歴史を熱く語る!


櫻庭誠二氏



■出発日 2023年
10/8(日)
 ■旅行代金(お1人様・子供同額)
 送料代金 7,000円



学びの旅

るるぶ

- 1973年(昭和48年)に日本交通公社(現JTBパブリッシング)によって創刊された旅行雑誌
- 「見る」「食べる」「遊ぶ」
- 1970年(昭和45年)日本国有鉄道(現JR)「ディスカバー・ジャパン・キャンペーン」
- (日本を発見し、自分自身を再発見する)
- ↓
- 観光旅行の定着と団体旅行から
- 個人旅行へ
- 周遊旅行からテーマ性のある旅へ



マスツーリズムからニューツーリズムへ

•「体験する」「交流する」「学ぶ」

- 2009年～
- 「見る」から「体験する」へ
- 例：伝統文化の鑑賞だけでなく、実際に触ったり
- 演じたりする
- 「食べる」から「交流する」へ
- 例：レストランや宿泊施設から地域の農家レストランで食べる
- 「遊ぶ」から「学ぶ」へ
- 例：単なる見学から専門家などのガイドの案内に耳を傾ける

持続可能な観光（サステナブルツーリズム）

- 地域資源の大量の人々による画一的な利用
から
- 地域社会と共生する地域資源利用へ
- 2017 年「持続可能な観光国際年」
(International Year of Sustainable
Tourism for Development)

持続可能な観光の定義 WTO

- 「旅行者、観光関連産業、自然環境、地域社会の需要を満たしつつ、経済面・社会面・環境面の影響も十分考慮に入れた観光」
- コミュニティーの文化面を尊重すること。
- コミュニティーの雇用状態や収入の状況、社会福祉の充実さ等、全ての人が利益を享受できる社会であること。
- 自然遺産や生態系の保全を図り、環境資源を長期的に持続可能な状態で活用すること。

持続可能な観光 WTO

- 1) 主要な生態学的過程を維持し、自然遺産や生物多様性の保全を図りつつ、観光開発において鍵となる環境資源を最適な形で活用する。
- 2) 訪問客を受け入れるコミュニティの社会文化面での真正性を尊重し、コミュニティの建築文化遺産や生きた文化遺産、さらには伝統的な価値観を守り、異文化理解や異文化に対する寛容性に資する。
- 3) 訪問客を受け入れるコミュニティが安定した雇用、収入獲得の機会、社会サービスを享受できるようにする等、全てのステークホルダーに公平な形で社会経済的な利益を分配し、貧困緩和に貢献しつつ、実行可能かつ長期的な経済運用を実施する。

日本政府観光局が考える持続可能な観光

- 地域の「文化」を守る育む
 - 地域の魅力あふれる伝統的な文化や文化遺産を保全
- 地域の「経済」を守る育む
 - インバウンド観光客の誘客や滞在、特産物の購買を促進
- 地域の「環境」を守る育む
 - 自然遺産や日本の生態系を保全し、環境資源の最適な活用

国際連合における「持続可能な発展」

- 「将来の世代ニーズを満たす能力を損なうことなく、今日の世代のニーズを満たすこと」
- 持続可能な開発目標(SDGs)
- 2015年の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」の中の17の目標のうち、目標8、目標12、目標14が観光が明記されている
- 目標8 働きがいも経済成長も
- サステイナブルツーリズムを通して、観光に関わる雇用の創出や地域経済の活性化につなげる
- 目標11 住み続けられるまちづくりを
- 地元住民や地域に配慮されたサステイナブルツーリズムを実施することで、観光客へのメリットだけでなく元々そこに住む住民が暮らしやすい街づくりにつなげる
- 目標12 つくる責任つかう責任
- 地域資源を有効に活用した観光開発をすることで、持続可能な消費生産サイクルを作ることにつなげる。
- 目標14 海の豊かさを守ろう
- 観光業を発展させながらも海の環境を守り続けることにつなげる。

サステナブルツーリズムの背景

- 世界の観光客の増加
- 1970年代以降、発展途上国を含めた大規模な観光開発の展開に伴い、国際的な観光産業は急成長。大規模開発、大量輸送、大量消費を目的とするマス・ツーリズムが主軸
- 顕在化した観光の負の側面
- 観光客の増加による生態系や宿泊の際の排水等によって、観光地の環境汚染や自然環境破壊が発生。
- 観光客の増加により、地域の伝統文化が薄れたり、文化遺産の破損・破壊等が発生。
- 観光客の騒音やゴミや物価の上昇等、地域コミュニティへの負荷が増加。
- 外国資本や他地域の資本が注入されたものの、海外や地域外からの調達品が多く、地域にお金が残らない

再生型観光 (Regenerative tourism)

- 旅行・観光による社会的・環境的影響に対し、
- 積極的に関与し、新しい関係性の中で模索する
- 新しい継続的で再生可能な旅行・観光
- 国際観光の発展と観光客増加による地域の「オーバーツーリズム」による地域/地域住民・観光客双方にとっての悪影響を減らし、地域や観光地を再生しながら更なる活発な観光地域づくりを推進する
- 地域資源や観光地域を現状から回復させ、より良い姿へ再生する
- 持続するだけでなく、観光業によるお金の循環、経済活性化、観光客や地域双方にとっての利益など、更なる発展を促進する

再生型観光 (Regenerative tourism)

- 旅行先の状況をより良くするような旅行
- 旅行先に着いたときよりも、去るときのほうが環境がより良く改善されているという状況を目指して。旅行者と住民地域を再生する。
- ①自然と調和した世界観
- ②有機的なシステム思考
- ③地域の新しい可能性の発見
- ④観光と生活システムの改革促進
- ⑤先住民族固有の土地、文化、知恵による癒し
- ⑥自然と地域の再生
- ⑦再生型観光の協力的実装

再生型観光

- ①滞在地を滞在する前よりも良くして離れる
- ②旅行者が地域に入り込むことで意義深く豊かな観光体験を得る
- ③住民と旅行者が良い関係を築く機会となる



- ハワイでの例
- 旅行前のオンラインメディアや動画による教育的コミュニケーション
- ハワイ州全体では170個程度のプログラム
- ホテルや地域NPOが用意したボランティアに参加すると、宿泊代金割引などのインセンティブ
- ビーチクリーンなどの簡単に参加できるものから、植林やタロイモ畑、伝統的生け簀の管理など特別な地域体験ができるものまで用意されている。
- 複数の宿泊施設に、ハワイ文化継承者(cultural stewardship)が常駐しており、ハワイ語やハワイの文化を正しく学ぶことが可能



海洋生物・植物保護

観察時の推奨距離



ウミガメ
3m (10ft) 以上



ハワイアン
モンクシール
15m (50ft) 以上
母子の場合
45m (150ft) 以上



小型の
クジラとイルカ
45m (50yd) 以上



大型のクジラ
90m (100yd) 以上

必須距離



ハワイアンスピナードルフィン
45m (50yd) 以上

一緒に泳いだり45メートル以内に
接近することは法律で禁じられています。



ザトウクジラ
90m (100yd) 以上

90メートル以内に接近することは
法律で禁じられています。



日焼け止め規制法

サンゴ礁への有害性が指摘される物質を含む日焼け止めの販売禁止

禁止対象

施行開始

- オキシベンゾン
- オクチノキサート

2021年1月1日～

マウイ島：2022年10月1日～

ハワイ島：2022年12月1日～

100%ミネラルの日焼け止めのみの流通・販売が可能に



オヒアレファを守るためにすべきこと

持続可能な社会の実現に向けて、旅行者がハワイでできること

プラスチックの削減

各島でプラスチック製レジ袋の使用を全面禁止

2019年12月にホノルル市議会で使い捨てプラスチック禁止法のひとつである条例40が可決
2021年と2022年よりレストランを含む食品販売業者への新しい条例が施行



ホテルやアトラクションの取り組み

アロヒラニリゾート ワイキキ ビーチ
森林再生プログラム
ザ・カハラ・ホテル&リゾート
KISKA



アウトリガー・リゾーツ
海洋生物とサンゴを守るプロジェクト
OZONE



プリンスワイキキ
アクアポニックス



ウェットアンドワイルドハワイ
100%太陽光発電



シーライフパークハワイ
ウミガメや海鳥の保護



クアロア・ランチ・ハワイ
60種類以上の農作物や養殖栽培
KualoaGrown



文化継承 – プロダクト開発



ツーリズムによる地元団体への還元＝プロダクト開発

- ・ コミュニティエンリッチメントプログラム (Community Enrichment Program)
- ・ ククル・オラ プログラム (Kūkulu Ola Program)
- ・ アロハ・アイナ プログラム (Aloha 'Āina Program)



五感で体験する観光

- 「見る」から「体験する」へ

- 単に説明やパンフレット配布だけでなく、地域の資源の本質を体験する様々なプログラムが利用できる。
- 体験を指導する人材には、地域の農家の人（農業体験）伝統文化継承・指導者（伝統文化体験）がプログラム実施の際に協力している。

- 「食べる」から「交流する」へ

- 単にテーブルに並べられた食事をするのではなく、料理人やサービス担当の方との会話やお店のキャラクターが魅力になっている。

- 「遊ぶ」から「学ぶ」へ

- 旅行者も地域住民などとのコミュニケーションを楽しみながら地域のことを知り、自分の地域などを再認識する。

-



- 旅行先もこれまでの定番から、今までに訪れたことのない地や、これまで以上に深く地域へ入り込む、一か所でゆっくり過ごすといったことが好まれてきた

道内の穴場 日帰り

北海道中央バスがツアー
第1弾は西胆振

北海道中央バス(小樽)

は道内の自治体にスポットを当て、地域の魅力を深掘りする日帰りバスツアーの販売を始めた。第1弾として今月末から、胆振管内西部の3市4町をそれぞれ巡る札幌発着のツアーを実施。機械メーカーの見学やものづくり体験など、地元

の観光関係者が一押しの「穴場」を楽しんでもらう。

「まるごと西いぶりツアー」のチラシをPRする北海道中央バスの担当者

回り、自治体の観光課や観光協会が選定した観光体験施設や地元の名物料理などを楽しんでもらう。

初回は今月31日の豊浦町編で、インディアン水車公園やホタテ養殖機械メーカーの山下機械店などを見学。2回目の室蘭市編(11月15日)では、旧室蘭駅舎や潮見公園などを巡った後、ご当地人形「ボルタ」の制作体験を行う。

各回とも中央バス札幌ターミナルを午前8時台に出発し、午後6時前後に戻る。各回1人1万2千円。7回全て参加した人には、5千〜6千円相当の特産品をプレゼントする。

登別・伊達・室蘭の3市と豊浦・洞爺湖・壮瞥・白老の4町を対象とする「まるごと西いぶりツアー」として、北海道登別洞爺広域観光圏協議会(事務局・登別)と共同企画した。来年2月まで日帰りツアーを7

を発見してもらいたい」とアピール。来年度以降は、日高や空知管内などで同様のツ





北海道中央バス(株)
シーブイツアーズカンパニー

日帰り

札幌発着

コースコードY0A099



月形樺戸博物館開館50周年記念特別企画!

☆あなたは知っていましたか?

知られざる集治監の歴史を月形町で学ぶ!

☆二人の名誉館長が

樺戸集治監の歴史を熱く語る!



櫻庭誠二氏



旧樺戸集治監本庁舎



中島学氏

■出発日 2023年

10/8(日)

■旅行代金(お1人様・子供同額)

旅行代金 7,000円

■最少催行人員/20名 ■添乗員/なし ※係員が同行します

■食事/昼食1回 ■バスガイド/なし

■利用バス会社/北海道中央バスグループ又は道南バス
又はドリーム観光バスまたはばんけいバス

櫻庭誠二氏が町内史跡ガイド!



町長・村長のバスガイドシリーズの第一回開催のバスガイドとして登場した前町長。流暢な語りかけは聞いている人の心をつかみ樺戸集治監の世界に案内してくれます。

中島学氏が集治監の歴史を語る!



法務省で矯正施設の要職を歴任。その傍ら九州大学で法学博士を取得。現在は福山大学で教授として、また、論文や書籍を執筆し監獄と刑務所に関する研究を深めています。

見学のご案内!



月形囚人墓地



円福寺



旧集治監杉林



水辺の家

日程	集合/中央バス札幌ターミナル1 随待合室(出発の15分前集合)			食事
各日	中央バス札幌ターミナル8:00	月形囚人墓地(見学/約20分)	円福寺(見学/約20分)	朝:×
		旧集治監杉林(見学/約20分)	水辺の家(買物/約15分)	昼:○
		ボボット(昼食/約60分)	旧樺戸集治監本庁舎(見学/約100分)	夕:×
	中央バス札幌ターミナル17:10 到着			



写真提供： 戎谷侑男



写真提供： 戎谷侑男



写真提供：戒谷侑男



写真提供：戒谷侑男

囚徒峯延道路開鑿之圖



樺戸（月形） - 市来知間道路（国道12号峰延道路）



写真提供：戎谷侑男

地元登別青嶺高校生の ボランティアガイドと散策



カーボンオフセット植林活動(下川町) バス1台分のCO2オフセット植林





地元食材のお弁当とプラスチックを使わない容器(下川町)



白樺樹液入りのクラフトビールと
チョウザメのフィッシュアンドチップ
ス(美深町)

インフラ施設見学 (下川町サンルダム)



やっば、北海道っしょ！

- 他所を訪問するということは、自分のいる地域を知ること。
- 旅で得たものは、地域に還元できる。
- 北海道には、人も資源も魅力的なものがいっぱい
- 旅は私にとって、精神の若返りの泉である。
- アンデルセン(デンマークの童話作家、詩人
- 1805～1875)

やっば、北海道っしょ！

旅する北海道民が支える
北海道観光

加藤 由紀子

北海商科大学公開講座

2023. 11. 11